世界が懸念していること

2025年12月

目次

1
まとめ

2
2025年の
重要ポイント

3
各国が進む方向

4
世界の懸念事項:
全リスト

5
世界の懸念:
長期的トレンド

6
経済フォーカス

7
調査手法

世界が懸念していること

イプソスの「世界が懸念していること」調査では、世界30か国で現在最も重要な社会問題や政治問題は何であると考えているのかを調査し、最新のスコアとその背景を10年分のデータをもとに探ります。

このグローバルサマリーレポートでは、世界中で最も懸念されていることを、自国が正しい方向/間違った方向のどちらに進んでいるかという人々の意見と共にご紹介しています。

調査結果のさらなる分析は、
www.ipsos.com
でもご覧いただけます。

詳細については、
Joseph.Nadler@Ipsos.com
までお問い合わせください。

© Ipsos | 世界が懸念していること | 2025年12月 | 第216回 | 公開

12月のヘッドライン

01. ラテンアメリカにおける楽観主義

今月、ラテンアメリカでは楽観的な見方が急増しており、調査対象となった6か国のうち5か国で、自国が「正しい方向に向かっている」と考える人の割合が増加しました。

11月16日に実施された大統領選挙の第1回投票を受けて、チリの正しい方向スコアは10ポイント上昇して42%となり、2022年4月(同じく42%)以来の最高値となっています。同様に、コロンビアのレベルは7ポイント上昇して40%になりましたが、これは2023年3月(同じく40%)以来の高水準です。ペルーは、低い水準から、楽観度が3ポイント上昇して21%となり、2023年1月(21%)以来の最高値となり、ほぼ3年ぶりの高水準に上昇しました。さらに、メキシコは6ポイント上昇して41%となり、ブラジルはわずかに上昇して41%となっています。

02. 東南アジアにおける気候変動への懸念

サイクロン「ディトワ」により東南アジアの一部で深刻な洪水が発生した後、この地域では不安が高まっています。

タイの気候変動に対する懸念度は8ポイント上昇して26%となり、昨年の同時期より11ポイント上昇しました。

同様に、マレーシアでも不安は7ポイント上昇して16%となり、これは同国で過去8年間で最も高い数値となっています。

インドネシアのスコアは前月比でわずかに上昇し、19%となっています。しかし、彼らの不安レベルは2025年9月以来13ポイント上昇しています。

03. 医療不安の減少

30か国全体で、医療に言及している割合は23%です。これは、2020年4月の28%以来の最高値であった2025年2月の25%から低下しています。

米国では、医療に関する懸念は10人中3人(31%)で安定しており、これは今年1月と同じ水準です。しかし、今年記録されたレベルほど不安のレベルが高かったのは、パンデミックがピークに達した2020年5月(スコア32%)以来です。

世界が懸念していること 2025年12月

最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。

		前月からの変化	前年からの変化
犯罪と暴力	32%	-2	+1
インフレ	30%	=	-3
貧困と社会的不平等	28%	=	-1
失業	28%	=	+1
汚職、経済的・政治的スキャンダル	27%	=	+1

国の状況

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。

	前月からの変化	前年からの変化
◀ 41% 正しい方向	+2	+4
◀ 59% 間違った方向	-2	-4

経済の状況

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

	前月からの変化	前年からの変化
◀ 39% 良い	=	+2
◀ 61% 悪い	=	-2

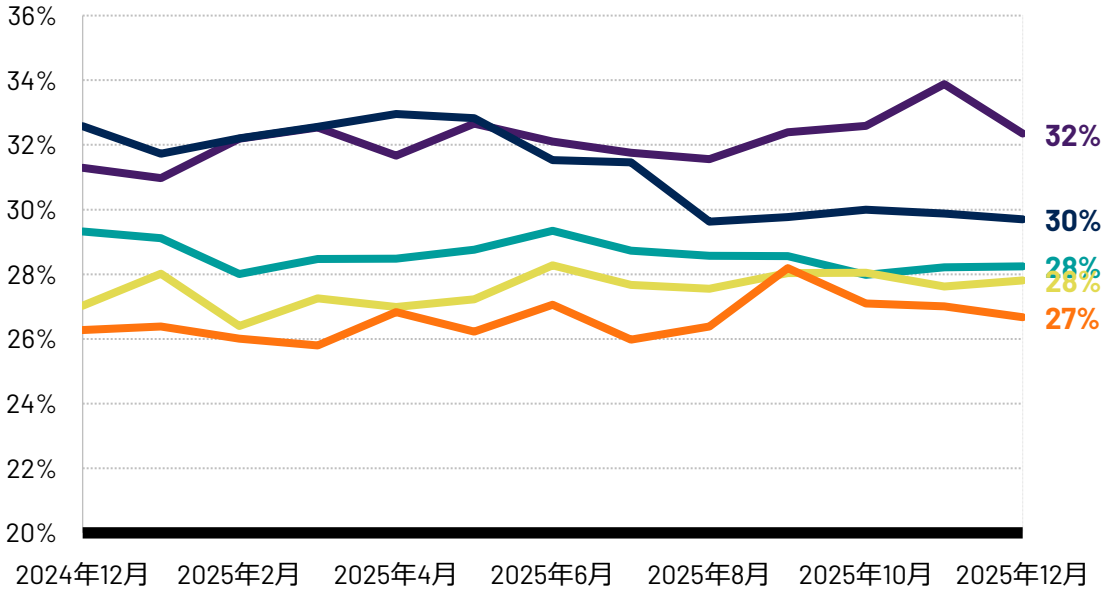
対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

世界が懸念していること 12か月間のトレンド

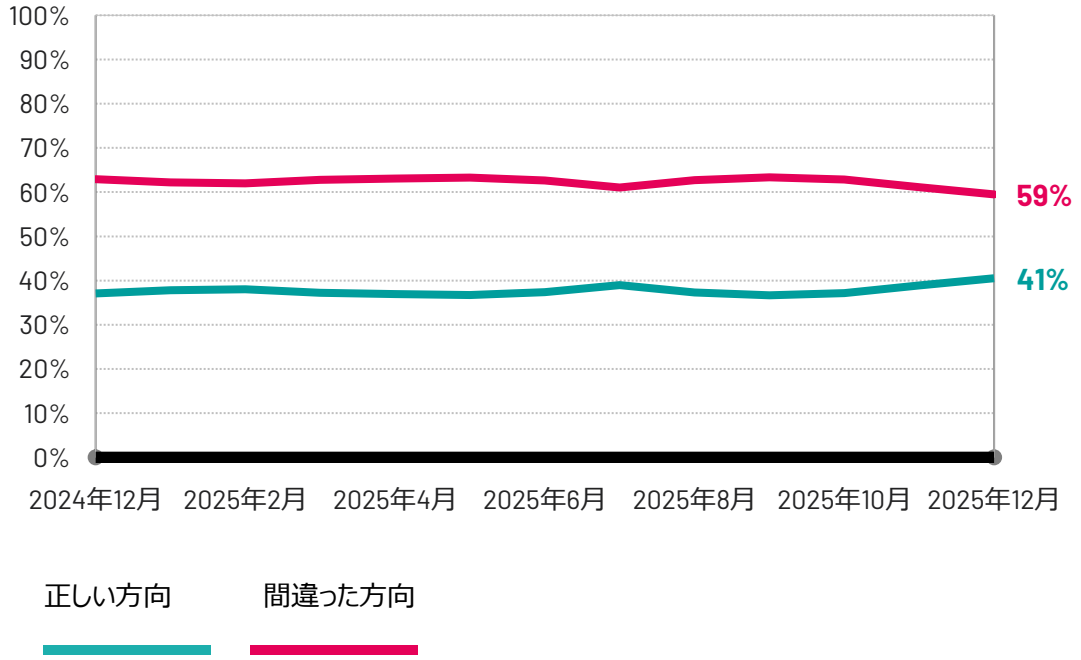
最も懸念していることトップ5

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。



国の状況

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



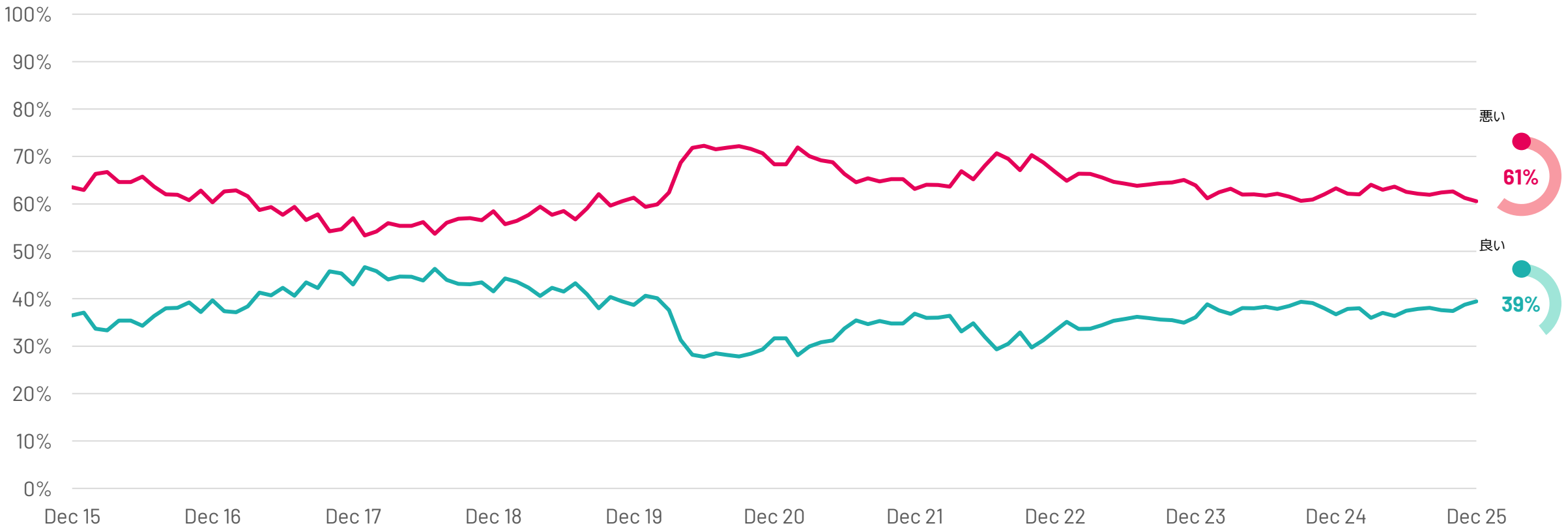
対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

世界経済の現状

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

(「とても良い」または「やや良い」と「とても悪い」または「やや悪い」の割合)



対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

2025年の重要ポイント

全体像は安定的: 2024～2025年、30か国の懸念事項トップ5

2024年12月

1. インフレ(32%)
2. 犯罪と暴力(31%)
3. 貧困と社会的不平等(29%)
4. 失業率と雇用(27%)
5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル(27%)

2025年12月

1. 犯罪と暴力(32%)
2. インフレ(30%)
3. 貧困と社会的不平等(28%)
4. 失業率と雇用(28%)
5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル(27%)

2025年の重要ポイント

01. 国ごとの変化

30か国平均では、18の懸念事項について前年比で大きな変化は見られませんでした。しかし、特定の国に注目すると、大きな変化が見られます。たとえば、ヨーロッパのいくつかの国では、犯罪や暴力に言及する割合が増加しています。

オランダの不安レベルは昨年12月より11ポイント上昇し、ドイツとイタリアでは6ポイント上昇、フランスでは5ポイント上昇となっています。

英国では懸念事項が変化しており、医療に関する懸念は7ポイント減少し、移民管理に関する懸念は10ポイント増加しました。

その一方で、米国人の医療に対する懸念レベルは1年で8ポイント増加しています。

02. 正しい方向に進んでいますか?

30か国全体で、自国が「正しい方向に向かっている」と答えた人の割合は、昨年12月以降4ポイント上昇し、5分の2(41%)となっています。

2024年12月、29か国中22か国で、自国が間違った方向に向かっていると回答した人が過半数を占めました。2025年12月には、30か国中23か国で過半数が同様の考えを持っています。2025年にアイルランドが調査に追加されたため、調査対象となる国が1か国増えました。韓国はここ1年で「正しい方向」派に、メキシコは「間違った方向」派に移行しました。

最も悲観的な国という点ではフランスがトップに立ち、9月には過去10年間で最低の正しい方向スコア9%を記録しました。今月は10%です。

03. 経済見通し

今年12月、30か国において、自国の経済状況を「良い」と評価する人の割合は39%となっています。今月のスコアはパンデミック直前の2019年12月と同スコアとなりました。

いくつかの国はパンデミック前の水準に戻るのに苦労しており、特にG7ではイタリア以外はまだ回復していません。

今月、自国の経済が「良い」と回答した国が過半数を占めるのはわずか6か国です(2024年12月は5か国)。これらの多くはアジア太平洋地域に属しています: シンガポール(78%)、マレーシア(74%)、インド(73%)、オランダ(63%)、インドネシア(52%)、アイルランド(51%)。経済見通しの詳細については、最新の消費者信頼感指数をご覧ください。

「正しい方向」変化

2024年12月～2025年12月

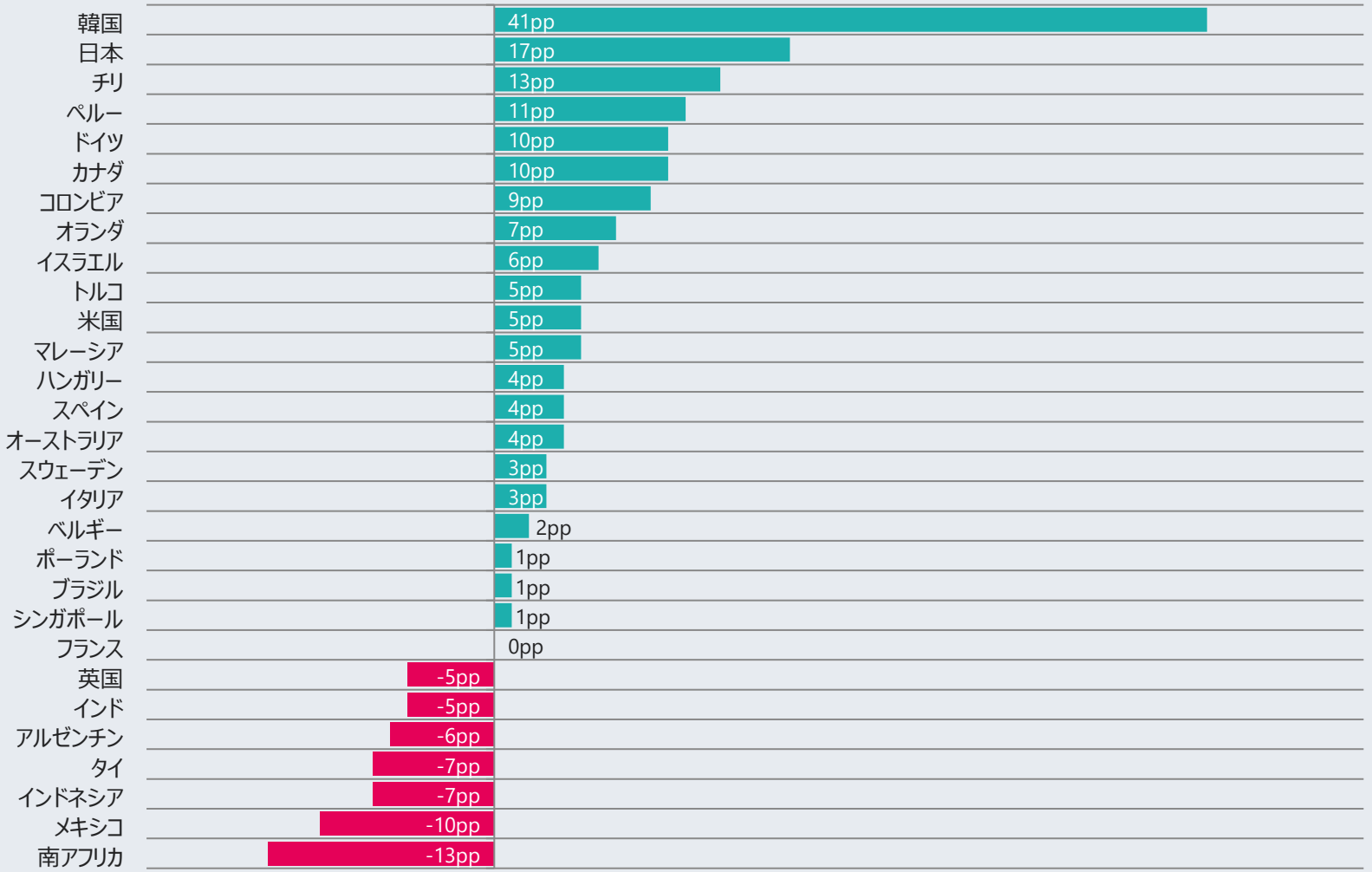
注: アイルランドは2025年半ばに追加されたため、リストに含まれていません。

2025 年ベース: 2025年11月21日から2025年12月5日までの、参加30か国の16歳から74歳までの24,656人の代表サンプル。

2024 年ベース: 2024年11月22日から2024年12月6日までの、参加29か国の16歳から74歳までの23,287人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。正しい方向



「正しい方向」変化

2024年12月～2025年12月

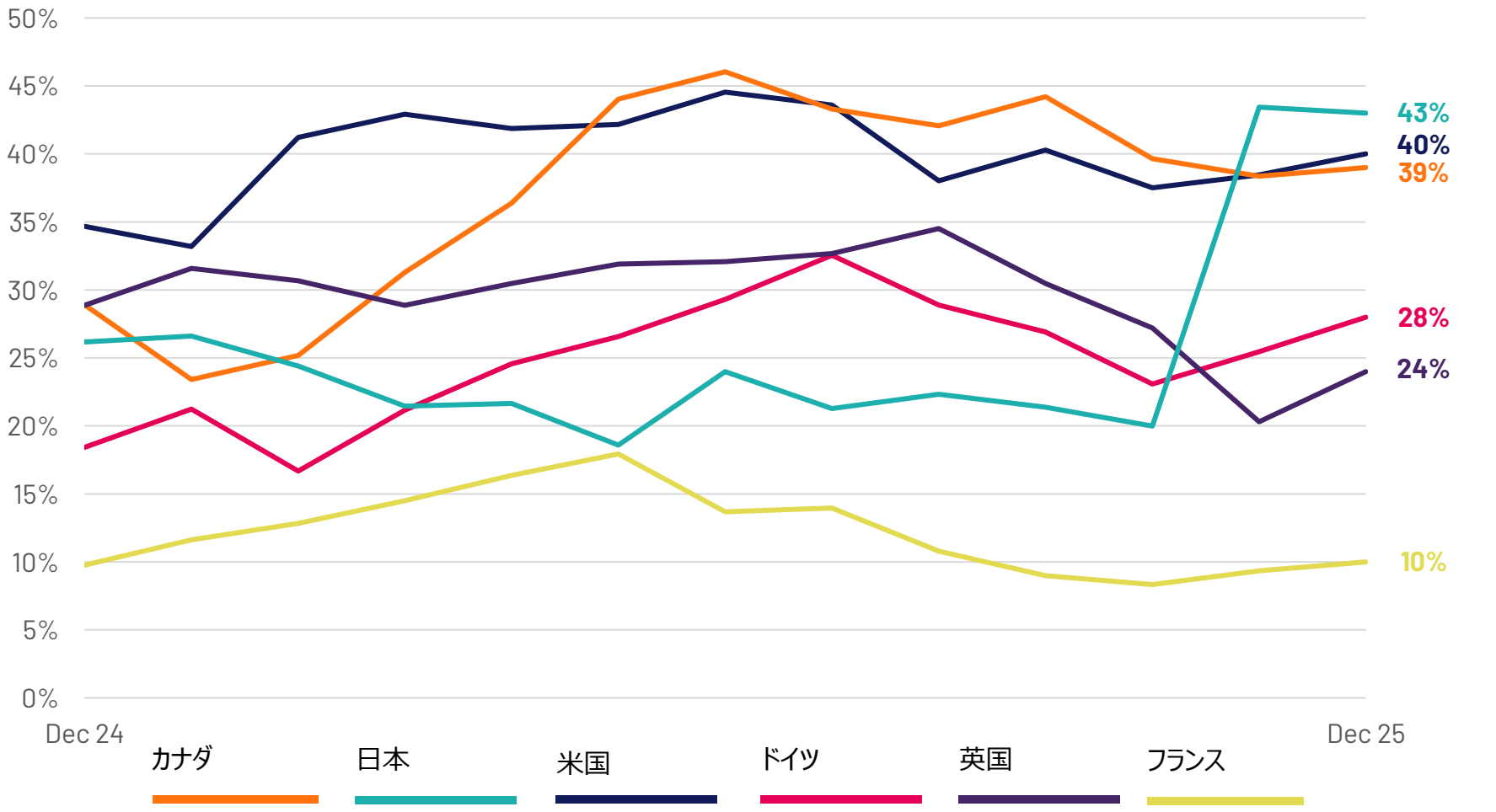
特定の国

2025 年ベース: 2025年11月21日から2025年12月5日までの、参加30か国の16歳から74歳までの24,656人の代表サンプル。

2024 年ベース: 2024年11月22日から2024年12月6日までの、参加29か国の16歳から74歳までの23,287人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。
正しい方向



経済状況の変化

2024年12月～2025年12月

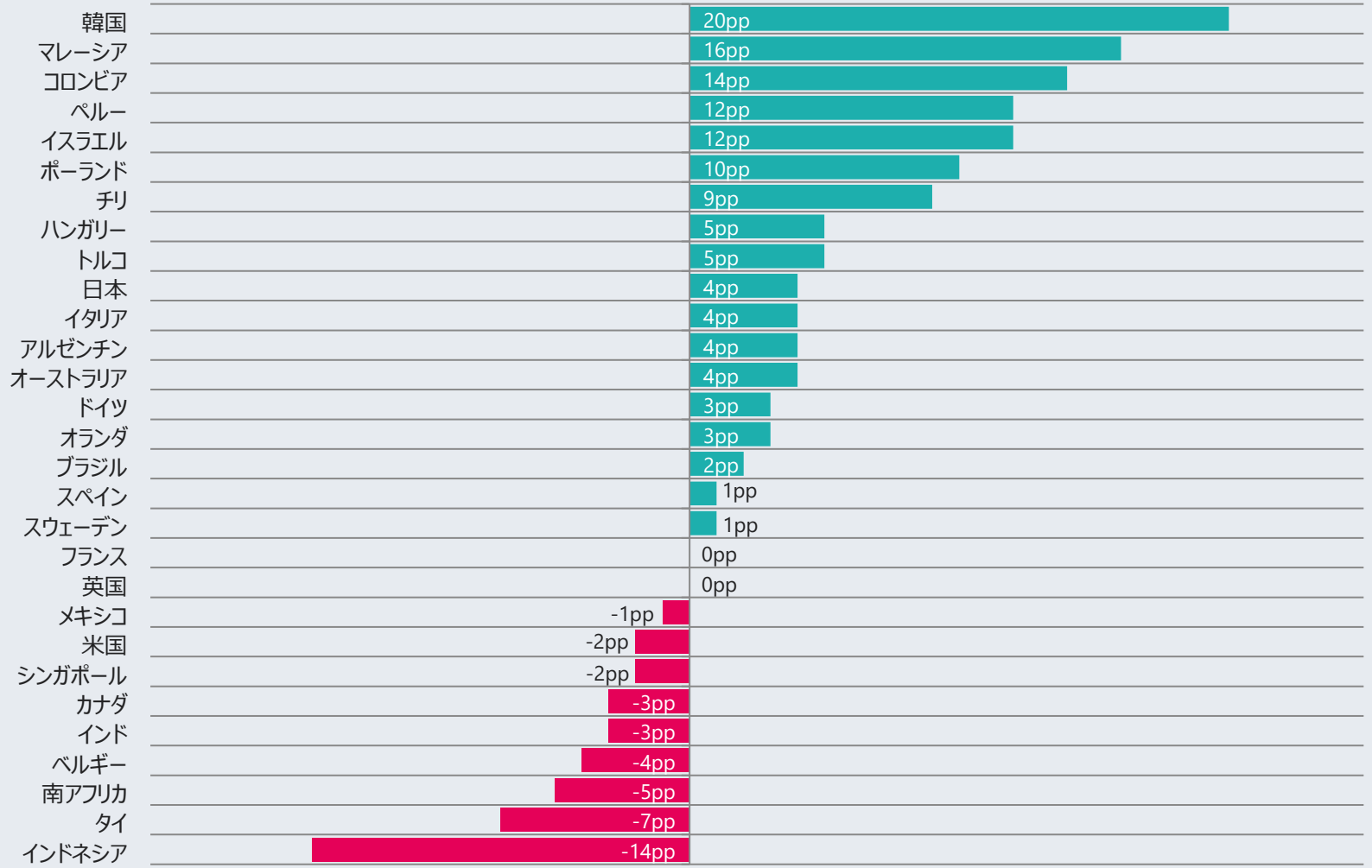
注: アイルランドは2025年半ばに追加されたため、リストに含まれていません。

2025 年ベース: 2025年11月21日から2025年12月5日までの、参加30か国の16歳から74歳までの24,656人の代表サンプル。

2024 年ベース: 2024年11月22日から2024年12月6日までの、参加29か国の16歳から74歳までの23,287人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。ネット値「良い」



現在の経済状況

2024年12月～2025年12月

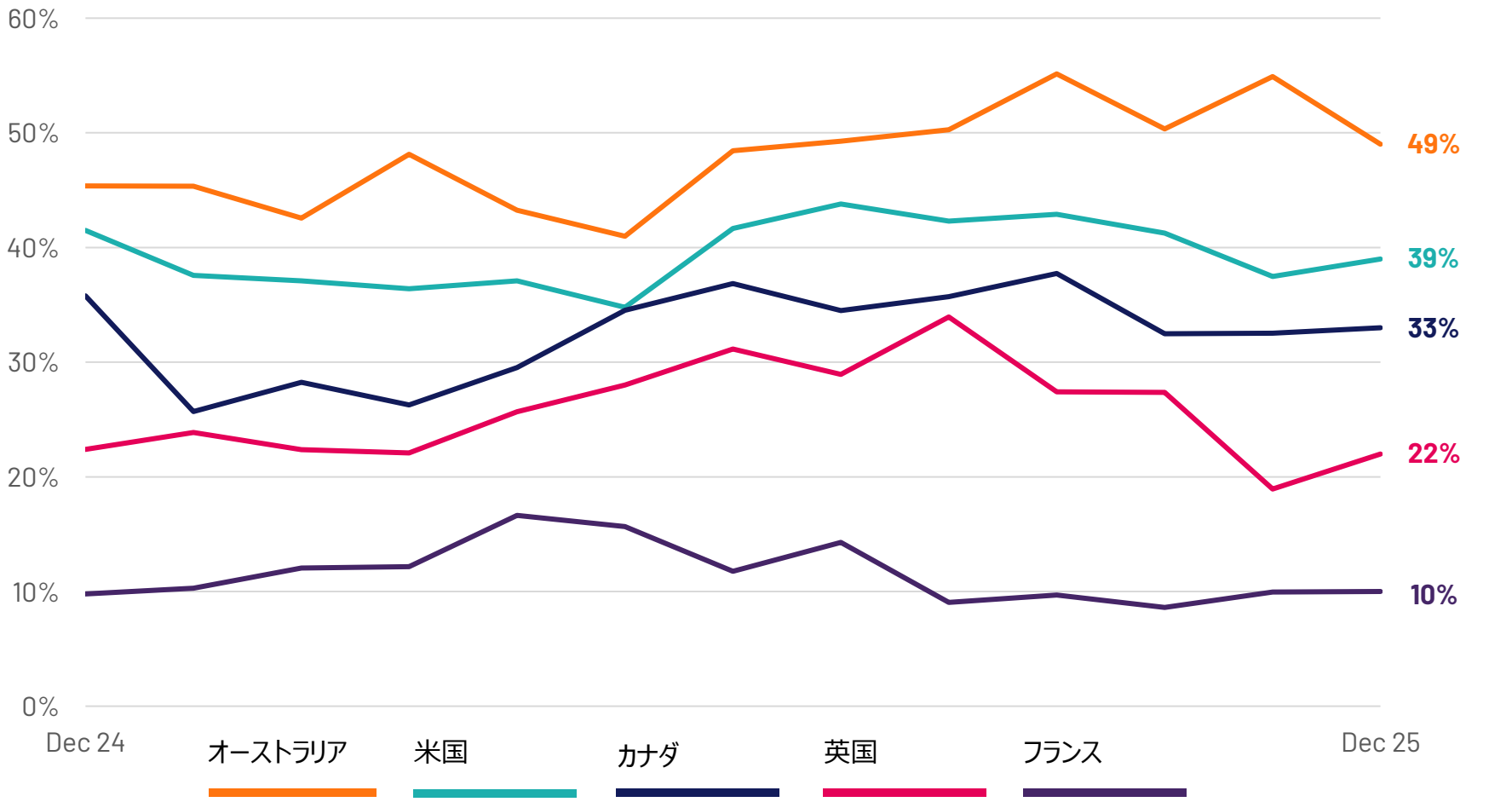
特定の国

2025 年ベース: 2025年11月21日から2025年12月5日までの、参加30か国の16歳から74歳までの24,656人の代表サンプル。

2024 年ベース: 2024年11月22日から2024年12月6日までの、参加29か国の16歳から74歳までの23,287人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。ネット値「良い」



各国が進む方向

全対象国

正しい方向/間違った方向モニター

30か国全体で、自国が「正しい方向に向かっている」と回答した人の割合は、この1か月で2ポイント増加し、5分の2(41%)となりました。これは2024年1月(同じく41%)以来の最高値です。

今月、ラテンアメリカでは楽観的な見方が急増しており、調査対象となった6か国のうち5か国で、自国が正しい方向に進んでいると考える人の割合が増加しました。11月16日の大統領選挙第1回投票後、チリの正しい方向スコアは10ポイント上昇して42%となり、2022年4月(同じく42%)以来の最高値となっています。同様に、コロンビアのレベルは7ポイント上昇して40%になりましたが、これは2023年3月(同じく40%)以来見られなかった値です。またペルーでは、楽観度が3ポイント上昇して21%となり、2023年1月(21%)以来の最高値となり、国民はほぼ3年ぶりの高水準を実感しています。さらに、メキシコは6ポイント上昇して41%となり、ブラジルはわずかに上昇して41%となっています。

41%

(30か国平均)が、自国が「正しい方向に向かっている」と回答しています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

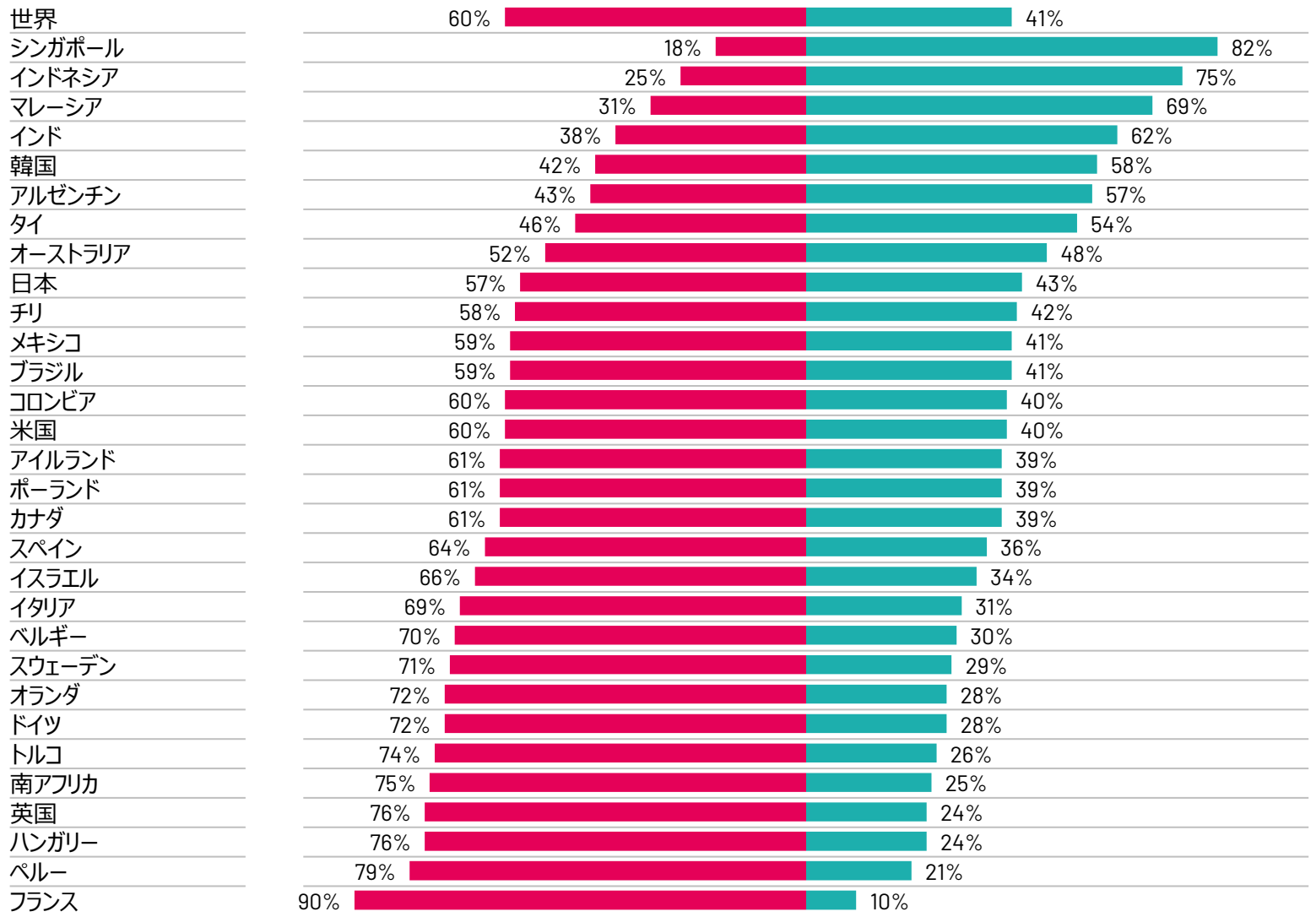
正しい方向/間違った方向モニター

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。(2025年12月)



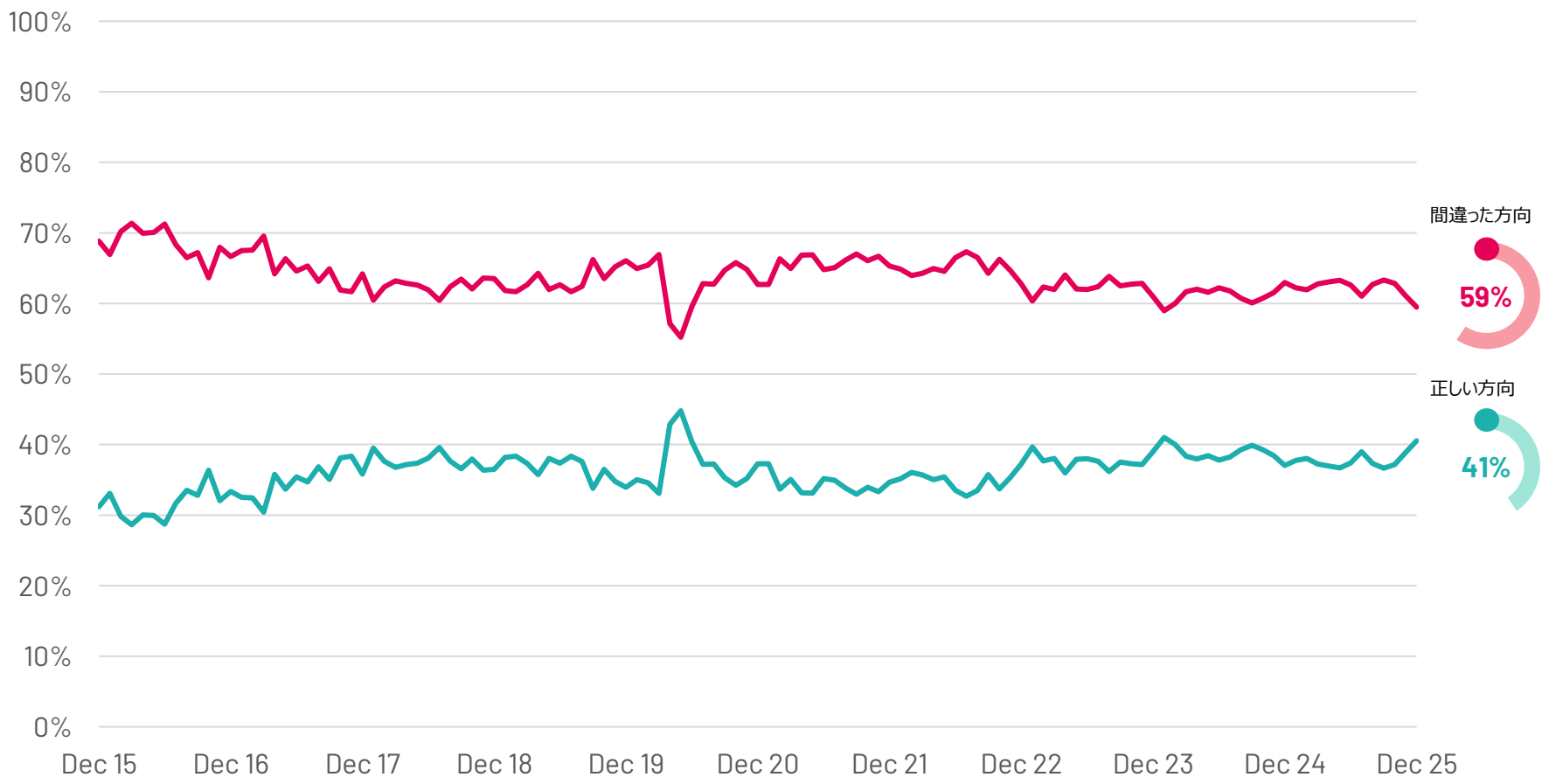
世界の正しい/間違った方向

世界各国の平均スコア

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Q: 全般的に見て、この国は正しい方向へ向かっていると思いますか、それとも間違った方向に向かっていると思いますか。



世界が懸念していることは？

ランキング上位の懸念事項

世界の懸念事項: 全リスト

先月、犯罪と暴力は2019年9月以来の最も高い懸念レベルを記録しました。しかし今月は、30か国全体の懸念レベルは2ポイント減少し、32%となりました。しかし、過去5か月間と同様に、全体としては依然として最大の懸念事項です。

2025年1月には、犯罪と暴力に関する言及は31%、インフレは32%でした。価格上昇に対する懸念は年間を通じて約3分の1(30%)で推移しています。

医療はしばらくの間、6位に留まっています。2025年2月には過去最高の25%を懸念していましたが、その後は減少傾向にあり、現在は23%となっています。

一方、移民管理に関する懸念は先月19%という新たな節目に達し、現在は18%となっています。今年1月には懸念は16%でした。

以降のスライドは、強調する懸念事項の一部です。ここに表示されていないがご覧になりたいものがある場合は、Joseph.Nadler@ipsos.comまでご連絡ください。

32%

(30か国平均)が、犯罪と暴力が自国が直面する主要な問題の一つであると回答しています。

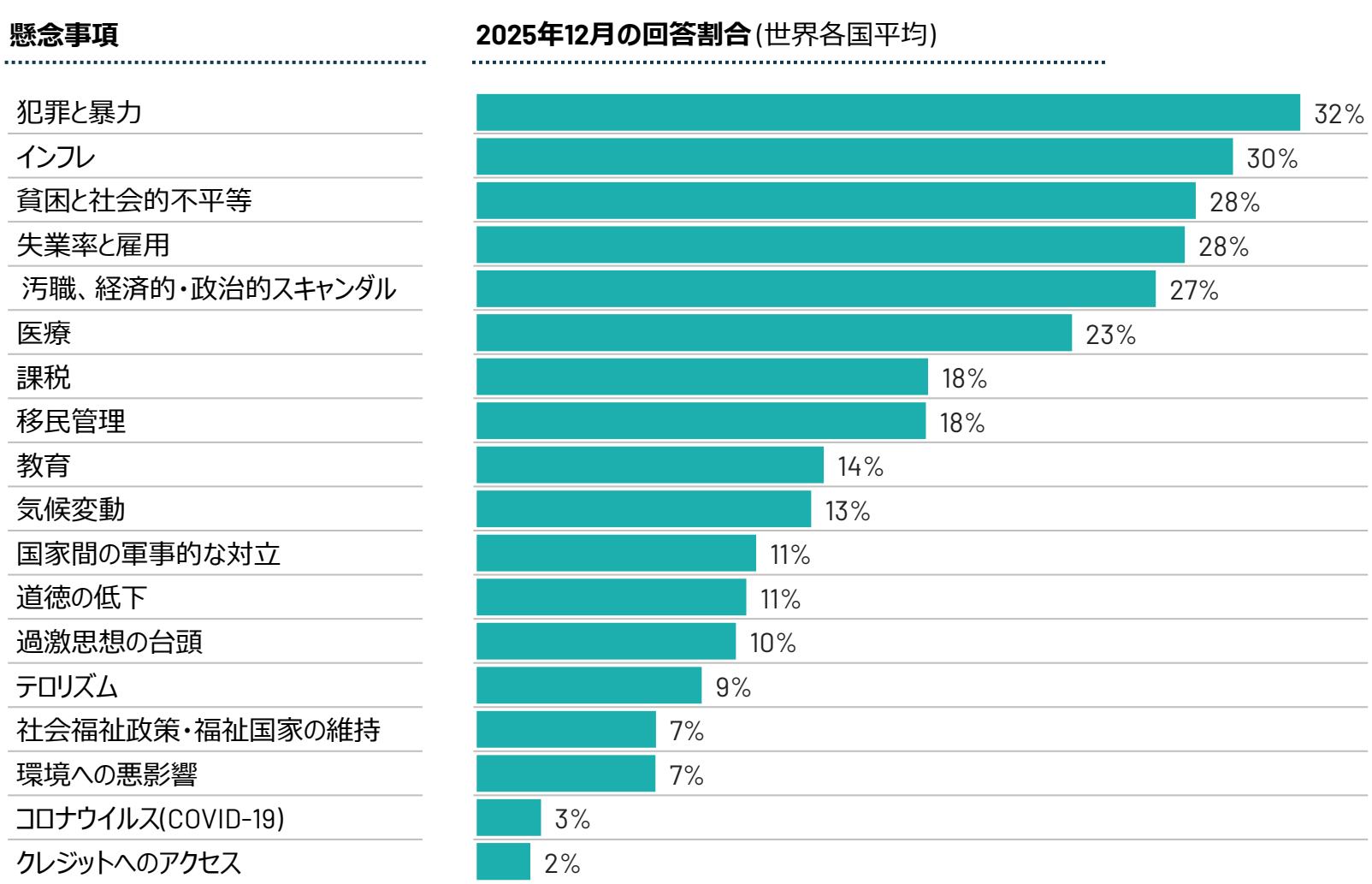
対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

世界の懸念事項: 全リスト

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。



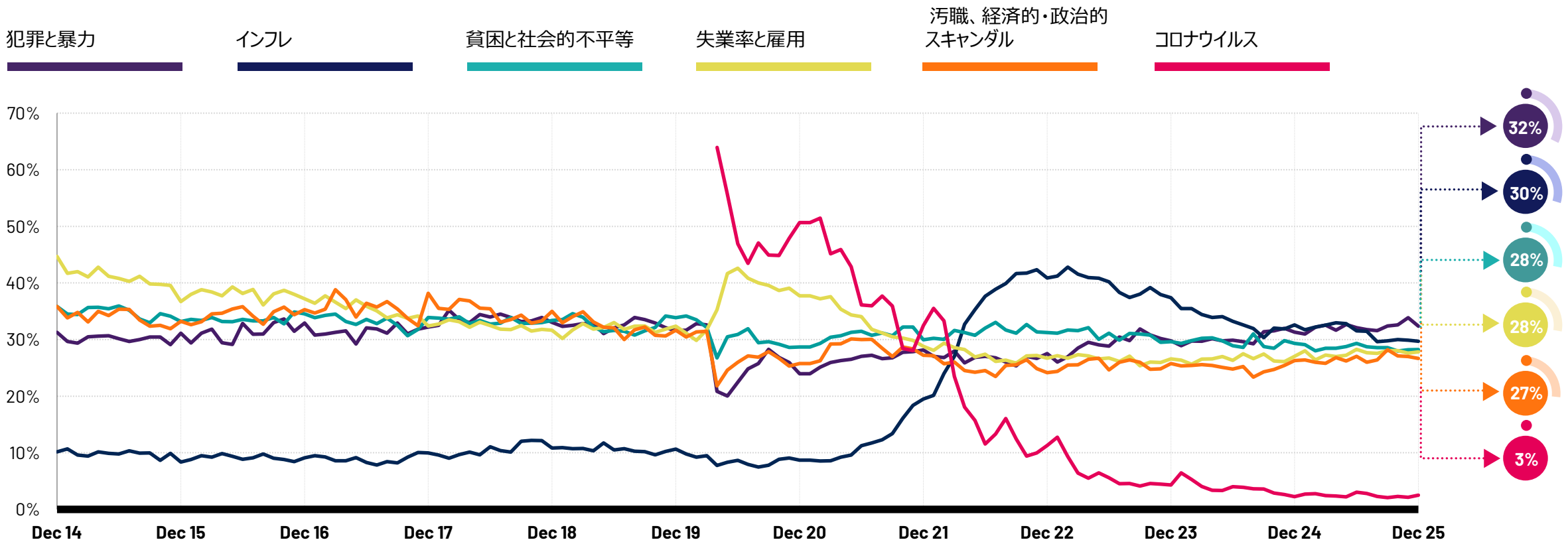
対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

世界の懸念: 長期的トレンド

Q: 次の中から、あなたの国において最も懸念される事項を3つ選択してください。 世界各国平均



対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

1. 犯罪と暴力

30か国全体で、犯罪や暴力に言及する割合は先月のピークから32%に減少しました。2025年にかけて、犯罪に対する懸念はわずかに増加しましたが、インフレに対する懸念は横ばいとなりました。

犯罪について懸念を表明するイタリア人の割合は、先月より3ポイント上昇して38%となり、これは昨年の同時期より10ポイント高く、イタリア全体では過去10年間で最高水準となっています。それが今や医療よりも彼らの最大の心配事となっています。

ペルーの懸念度は先月から3分の2(66%)に低下しました。ペルーでは2024年9月以降、犯罪が最大の問題となっています。

犯罪と暴力が最大の懸念事項となっている国:

- ペルー(66%)
- メキシコ(61%)
- スウェーデン(60%)
- チリ(59%)
- ブラジル(45%)
- コロンビア(41%)
- イタリア(38%)
- フランス(37%)

32%

が、**犯罪と暴力**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

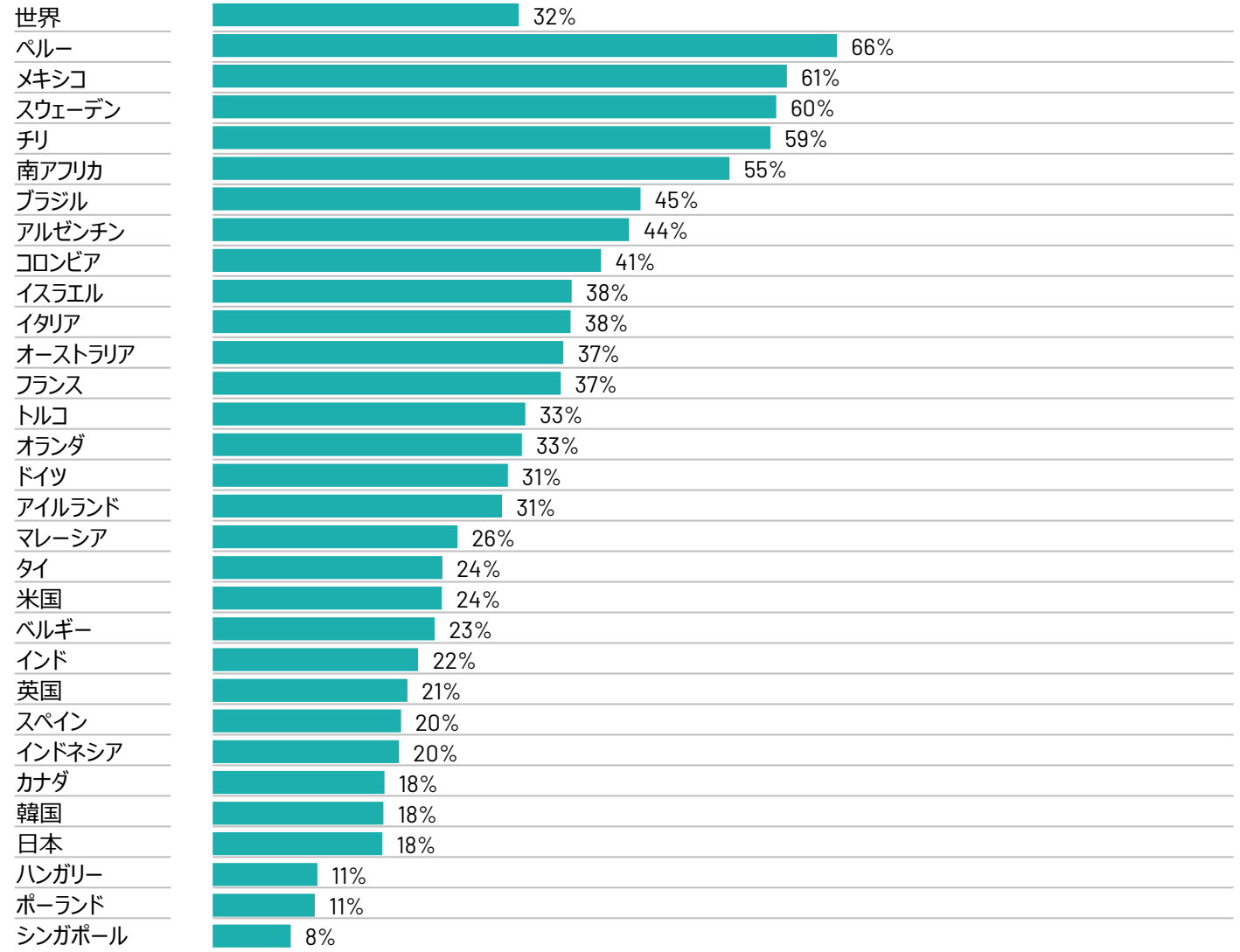
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

1. 犯罪と暴力

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	犯罪と暴力を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	32%	-2	+1
ペルー	66%	-4	+1
メキシコ	61%	+1	+2
スウェーデン	60%	+2	+3
チリ	59%	-2	-5
南アフリカ	55%	-1	+1
ブラジル	45%	-7	+4
アルゼンチン	44%	-2	=
コロンビア	41%	+3	-3
イスラエル	38%	+2	+10
イタリア	38%	+3	+6
オーストラリア	37%	-2	+3
フランス	37%	+1	+5
トルコ	33%	-1	+4
オランダ	33%	+5	+11
ドイツ	31%	+3	+6
アイルランド	31%	-5	+3
マレーシア	26%	-12	-1
タイ	24%	-3	=
米国	24%	-4	-4
ベルギー	23%	-5	-3
インド	22%	+2	-3
英国	21%	-8	-5
スペイン	20%	+1	+2
インドネシア	20%	+1	+1
カナダ	18%	-4	-4
韓国	18%	-5	+4
日本	18%	-4	-10
ハンガリー	11%	+4	+3
ポーランド	11%	+1	+4
シンガポール	8%	-3	-2

2. インフレ

今月も30か国平均で、インフレに言及した割合は10人中3人(30%)のままです。インフレに対する懸念は年々徐々に低下しており、2024年12月には33%でした。

金利引き下げの議論が続く中、インドではインフレへの懸念が大幅に高まっています。不安を表明する割合は12ポイント上昇し46%となっています。しかし、インドでは価格上昇への懸念が大きく変動するため、その意義を解釈するのは困難です。

シンガポールでは、心配していると答えた人が7ポイント減少して52%となっています。これは2024年9月(47%)以来の最低値です。

インフレが最大の懸念事項となっている国:

- トルコ(50%)
- インド(46%)
- カナダ(45%)
- 米国(41%)
- オーストラリア(40%)
- 日本(31%)

30%

が、**インフレ**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

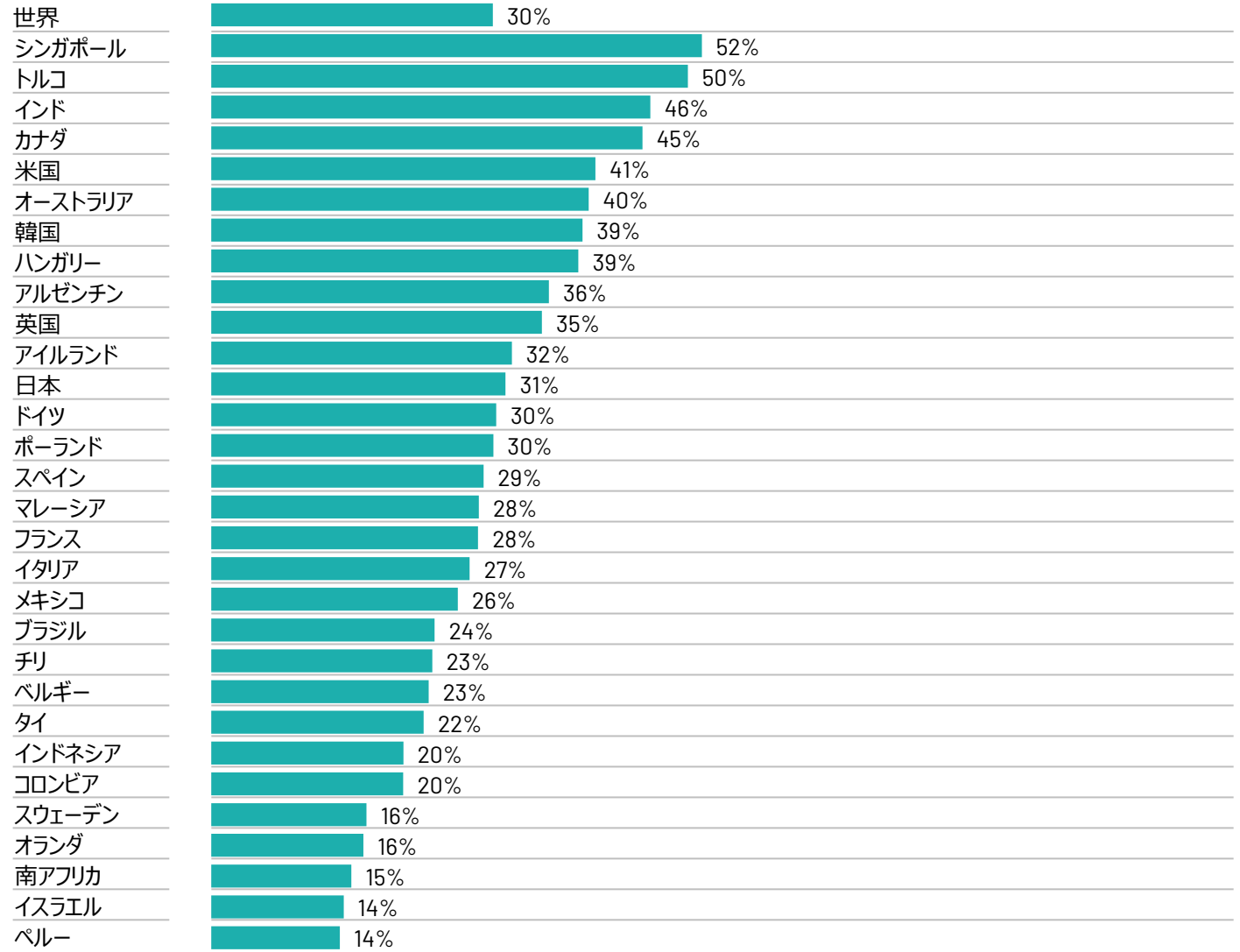
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

2. インフレ

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	インフレを懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	30%	=	-3
シンガポール	52%	-7	-8
トルコ	50%	=	-1
インド	46%	+12	+1
カナダ	45%	-2	-4
米国	41%	+2	-5
オーストラリア	40%	=	-9
韓国	39%	+3	+3
ハンガリー	39%	+2	+1
アルゼンチン	36%	-1	-2
英国	35%	+2	+5
アイルランド	32%	-2	-4
日本	31%	=	+1
ドイツ	30%	=	-1
ポーランド	30%	+1	-13
スペイン	29%	-2	+2
マレーシア	28%	-3	=
フランス	28%	-4	-9
イタリア	27%	+5	+2
メキシコ	26%	-4	-12
ブラジル	24%	+1	-2
チリ	23%	-1	-6
ベルギー	23%	-1	-4
タイ	22%	-3	-6
インドネシア	20%	+2	+5
コロンビア	20%	+1	-4
スウェーデン	16%	-3	=
オランダ	16%	-4	-2
南アフリカ	15%	-1	-4
イスラエル	14%	-1	-9
ペルー	14%	+4	-2

3. 貧困と社会的不平等

30か国全体で、貧困と社会的不平等に言及する割合は28%のままです。一年を通じて、懸念のレベルはこのレベル付近で安定しています。

不平等を懸念していると答えたブラジル人の割合は、先月から7ポイント減少して31%となっています。これは昨年の同時期より6ポイント低く、2024年10月以来の最低水準(同じく31%)となっています。

スウェーデンの懸念レベルはわずかに上昇し、過去最高の26%となっています。これは2023年5月の28%以来の最高値です。

ドイツ(32%)は現在、不平等を最大の懸念事項としています。しかし、今月は移民管理に対する懸念が6ポイント低下しています。

貧困と社会的不平等が最大の懸念事項となっている国:

- ドイツ(32%)

28%

が、**貧困と社会的不平等**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

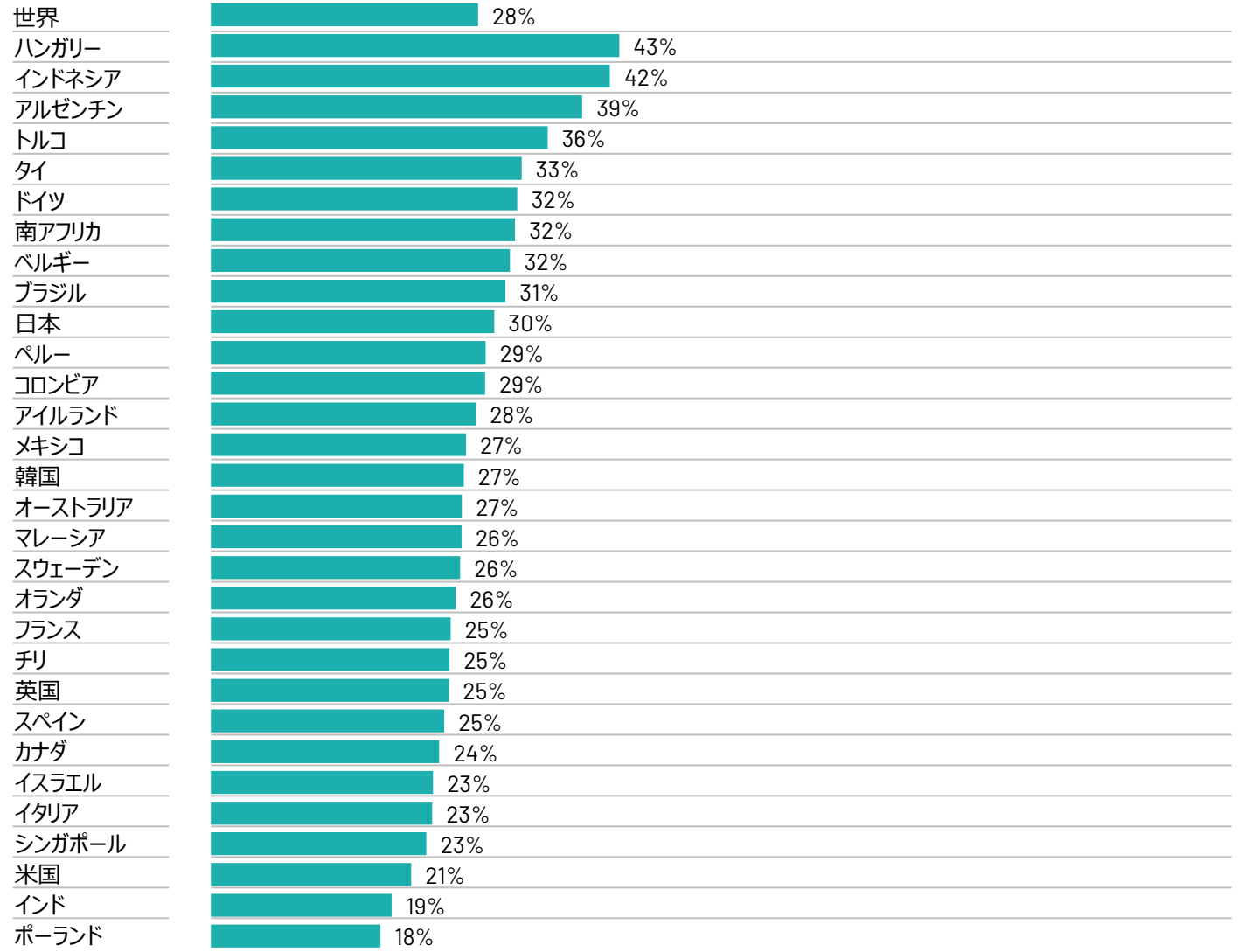
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

3. 貧困と社会的不平等

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	貧困と社会的不平等を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	28%	=	-1
ハンガリー	43%	-1	+2
インドネシア	42%	-5	+3
アルゼンチン	39%	-2	-4
トルコ	36%	+2	+1
タイ	33%	-3	-7
ドイツ	32%	=	-1
南アフリカ	32%	-1	-4
ベルギー	32%	+3	+1
ブラジル	31%	-7	-6
日本	30%	-3	-4
ペルー	29%	-1	=
コロンビア	29%	+2	-4
アイルランド	28%	+1	+1
メキシコ	27%	+3	+4
韓国	27%	+2	+4
オーストラリア	27%	+3	=
マレーシア	26%	=	-1
スウェーデン	26%	+2	+6
オランダ	26%	=	-5
フランス	25%	-2	-4
チリ	25%	+4	-3
英国	25%	+1	-3
スペイン	25%	+3	-1
カナダ	24%	+2	-2
イスラエル	23%	=	-1
イタリア	23%	-6	-3
シンガポール	23%	+6	+2
米国	21%	-1	+4
インド	19%	=	-3
ポーランド	18%	-2	-5

4. 失業率と雇用

今月、失業について言及している30か国の割合は28%のままです。

南アフリカは長期的に見て失業を最も懸念しており、2020年3月以降、失業が最大の懸念事項となっています。今月、失業に言及した人の割合は6ポイント増加して10人中7人(70%)となり、2023年6月(同じく70%)以来の最高値となっています。

コロンビアではその逆です。懸念レベルは8ポイント低下して31%となり、過去最低となっています。これは、2021年3月に調査対象に追加されて以来、コロンビアで最低の数字です。

失業率と雇用が最大の懸念事項となっている国:

- 南アフリカ(70%)
- シンガポール(53%)
- アルゼンチン(48%)
- 韓国(47%)

28%

が、**失業率と雇用**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

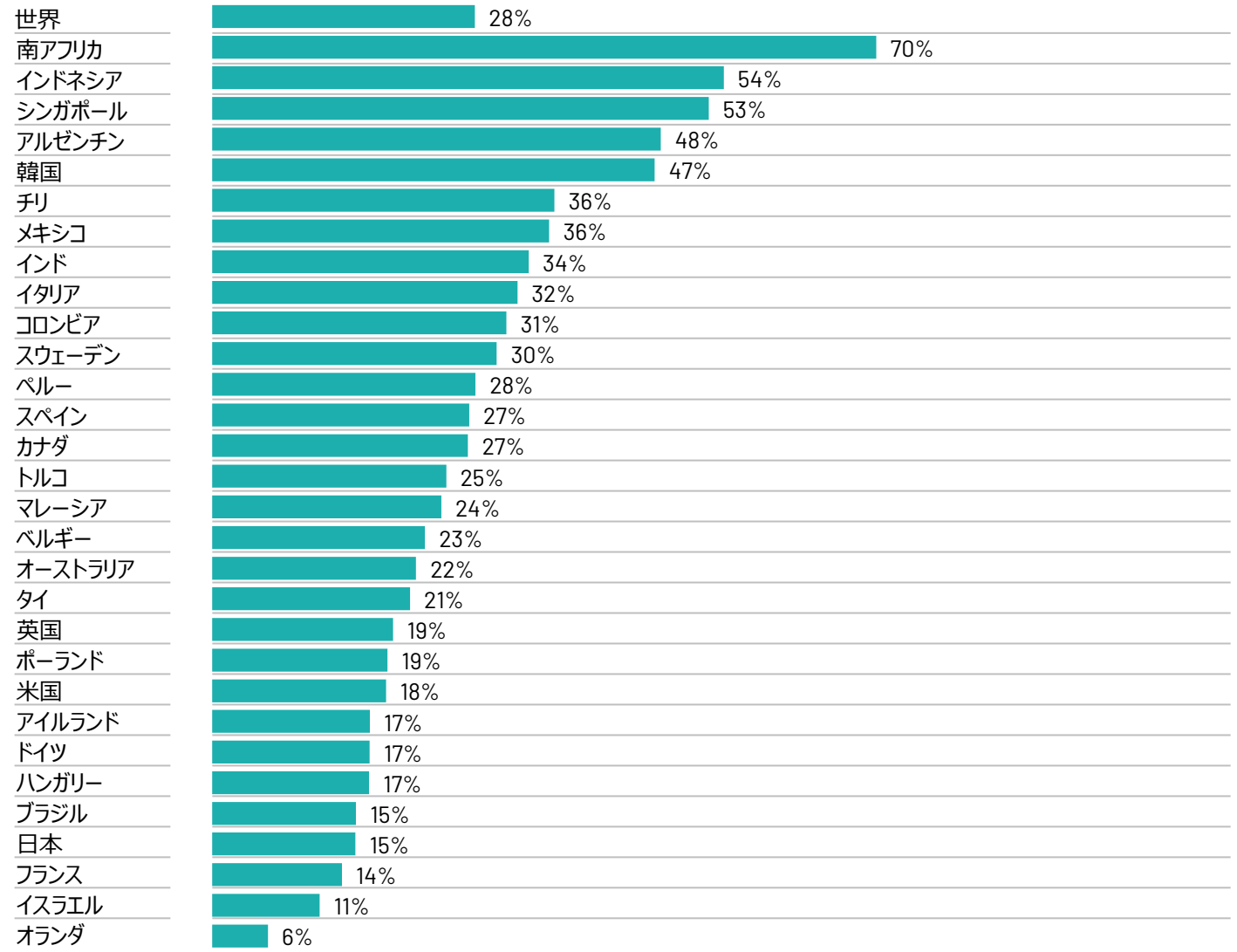
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

4. 失業率と雇用

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	失業率と雇用を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	28%	=	+1
南アフリカ	70%	+6	+5
インドネシア	54%	+2	+6
シンガポール	53%	-1	+8
アルゼンチン	48%	-1	+4
韓国	47%	+3	+4
チリ	36%	-3	+2
メキシコ	36%	+3	+7
インド	34%	+6	-5
イタリア	32%	-3	-1
コロンビア	31%	-8	-11
スウェーデン	30%	+3	+9
ペルー	28%	-2	-6
スペイン	27%	-2	-4
カナダ	27%	-3	+6
トルコ	25%	=	+3
マレーシア	24%	-1	-3
ベルギー	23%	+1	+4
オーストラリア	22%	+3	=
タイ	21%	-3	-15
英国	19%	+4	+4
ポーランド	19%	-3	+2
米国	18%	-2	+5
アイルランド	17%	+3	+1
ドイツ	17%	+3	+3
ハンガリー	17%	=	+2
ブラジル	15%	-1	-5
日本	15%	-1	-2
フランス	14%	+1	-2
イスラエル	11%	+1	+2
オランダ	6%	+2	+2

5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

30か国全体で、汚職に対する懸念を表明する人の割合は依然として27%です。2025年9月には不安は28%でピークに達し、これは2021年11月の29%以来の最高値となっています。

汚職を選択したメキシコ人の割合は先月からわずかに減少し、3分の1(34%)となっています。しかし、この低下にもかかわらず、これは比較的高いレベルの懸念であり、先月のスコアは2021年5月の35%以来の最高値となっています。先月、同国では汚職と麻薬暴力に対する大規模な抗議活動が起きました。

汚職、経済的・政治的スキャンダルが最大の懸念事項となっている国:

- インドネシア(61%)
- スペイン(36%)
- マレーシア(46%)
- タイ(43%)

27%

が、**汚職、経済的・政治的スキャンダル**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

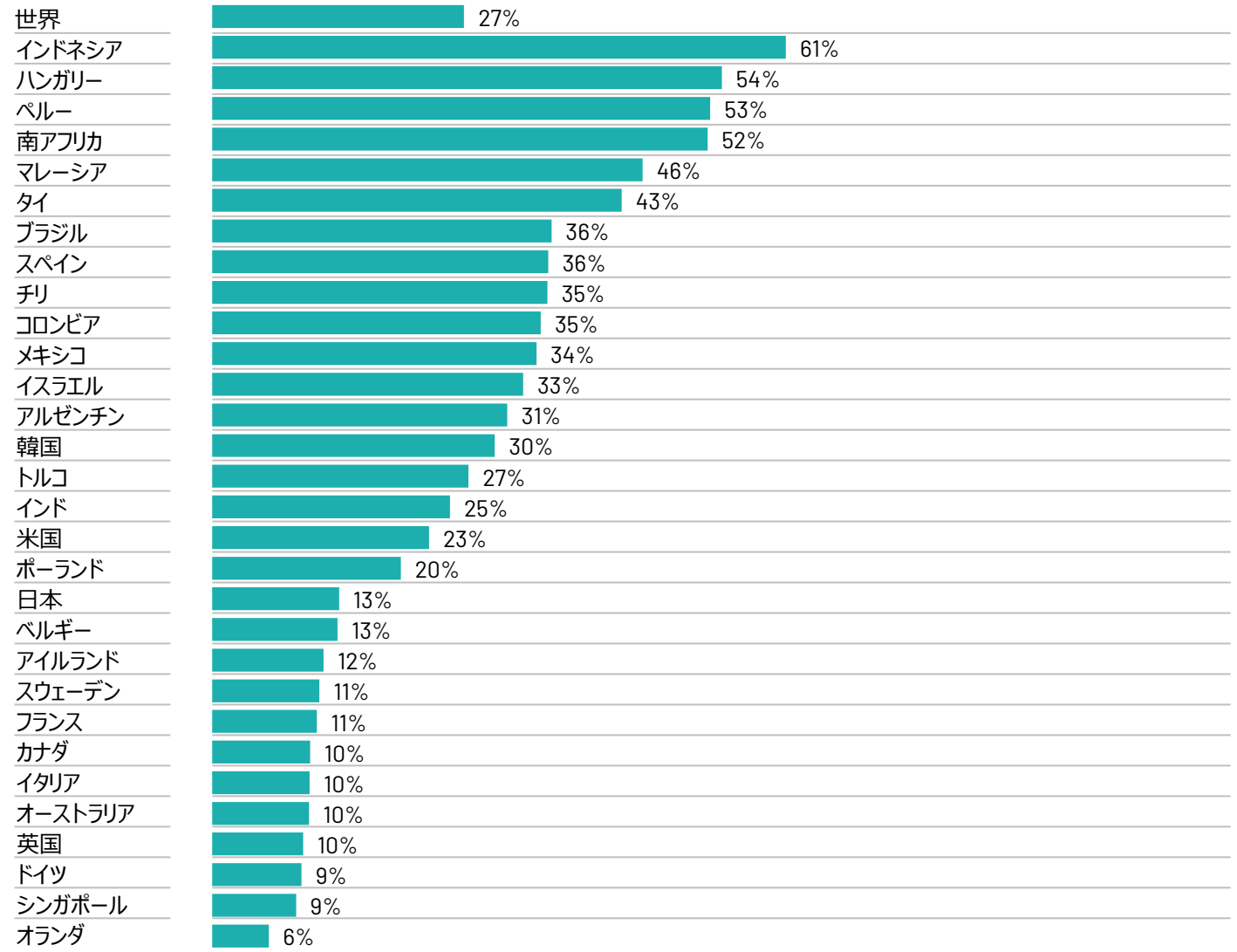
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

5. 汚職、経済的・政治的スキャンダル

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



6. 医療

30 か国全体で医療に言及している割合は、依然として4分の1未満(23%)のままです。2025年にかけて、医療は2月のピーク時(25%)からわずかに減少しました。

米国では、医療に関する懸念は今年1月と同じ31%にわずかに上昇しました。しかし、2025年1月時点で不安レベルが最高値に達したのは、パンデミックがピークに達した2020年5月(スコア32%)以来です。10月1日から11月12日まで、米国政府は閉鎖されましたが、その主な理由の一つは医療費でした。

医療が最大の懸念事項である国:

- ハンガリー(62%)
- ポーランド(43%)
- アイルランド(41%)

23%

が、**医療**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

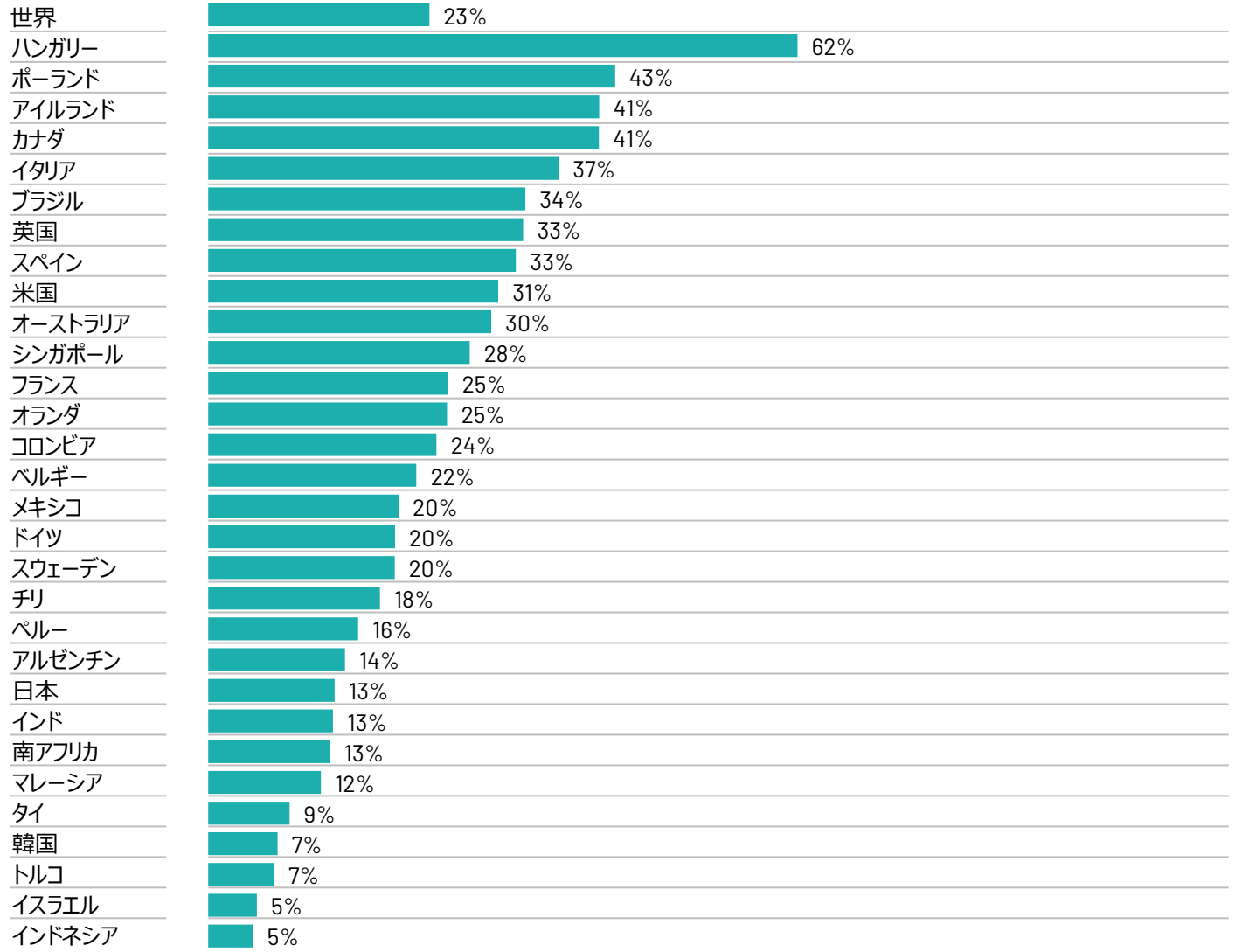
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

6. 医療

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	医療を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	23%	=	-1
ハンガリー	62%	=	-2
ポーランド	43%	+7	=
アイルランド	41%	=	-8
カナダ	41%	+2	+3
イタリア	37%	-1	-4
ブラジル	34%	-2	-4
英国	33%	=	-7
スペイン	33%	+1	+6
米国	31%	+2	+8
オーストラリア	30%	+3	+1
シンガポール	28%	-7	-2
フランス	25%	-1	-1
オランダ	25%	-6	=
コロンビア	24%	-2	+7
ベルギー	22%	=	+2
メキシコ	20%	+2	+1
ドイツ	20%	=	=
スウェーデン	20%	+1	-7
チリ	18%	-1	=
ペルー	16%	+5	+2
アルゼンチン	14%	-1	+1
日本	13%	-1	+3
インド	13%	+2	+1
南アフリカ	13%	=	-2
マレーシア	12%	+1	+1
タイ	9%	+2	+1
韓国	7%	+1	-10
トルコ	7%	=	=
イスラエル	5%	-4	-1
インドネシア	5%	-1	=

7. 課税

30か国全体で税金に言及している割合は18%で変わりません。

ベルギーでは税金が最大の懸念事項となっており、5分の2(39%)が懸念事項であると回答しており、これは前月より3ポイント増加しています。これは昨年の同時期より8ポイント高く、2022年8月(40%)以来の最高値です。

11月26日に英国で秋季予算が発表された後、税金に対する懸念はわずかに上昇して4分の1(24%)となり、2025年3月と並んで最も高い数値となっています。このレベルの懸念は8年間見られていません。

課税が最大の懸念事項となっている国:

- ベルギー(39%)

18%

が、**課税**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

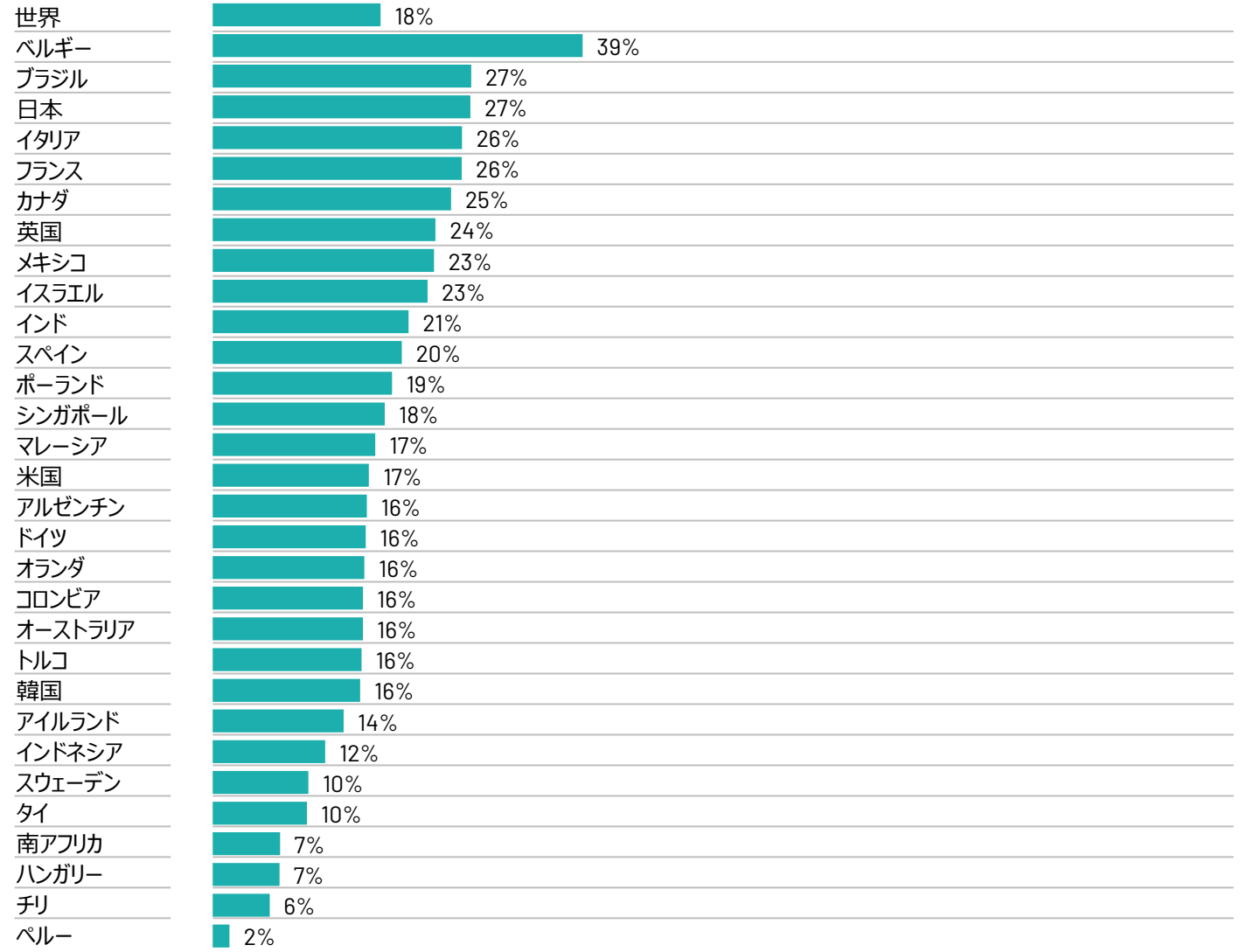
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

7. 課税

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	課税を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	18%	=	=
ベルギー	39%	+3	+8
ブラジル	27%	+2	+5
日本	27%	-2	-4
イタリア	26%	+1	-5
フランス	26%	-6	+1
カナダ	25%	+1	-3
英国	24%	+3	+2
メキシコ	23%	-1	+9
イスラエル	23%	+3	=
インド	21%	+5	-1
スペイン	20%	+1	-1
ポーランド	19%	-1	-3
シンガポール	18%	+3	-2
マレーシア	17%	-1	=
米国	17%	=	-1
アルゼンチン	16%	-3	-4
ドイツ	16%	+5	+4
オランダ	16%	+2	+6
コロンビア	16%	-3	=
オーストラリア	16%	-3	+1
トルコ	16%	-3	-4
韓国	16%	=	+3
アイルランド	14%	-4	-4
インドネシア	12%	-4	-5
スウェーデン	10%	=	=
タイ	10%	-2	-1
南アフリカ	7%	-2	-5
ハンガリー	7%	+1	-3
チリ	6%	-4	-3
ペルー	2%	-4	-4

8. 移民管理

30か国全体で移民管理に言及した割合は先月からわずかに減少し、18%となっています。今年1月、各国平均懸念度は16%でした。

日本の懸念度は先月から3ポイント低下したにもかかわらず、11月のスコアの25%は、過去8年間で最高となっています。

さらに、南アフリカ人の懸念は5ポイント上昇して21%となり、これも8年ぶりの高水準となっています。

英国では前年から10ポイント増となり、長年最大の懸念であった医療を押しのける結果となりました。

移民管理が最大の懸念事項となっている国:

- 英国(41%)
- オランダ(38%)

18%

が、**移民管理**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

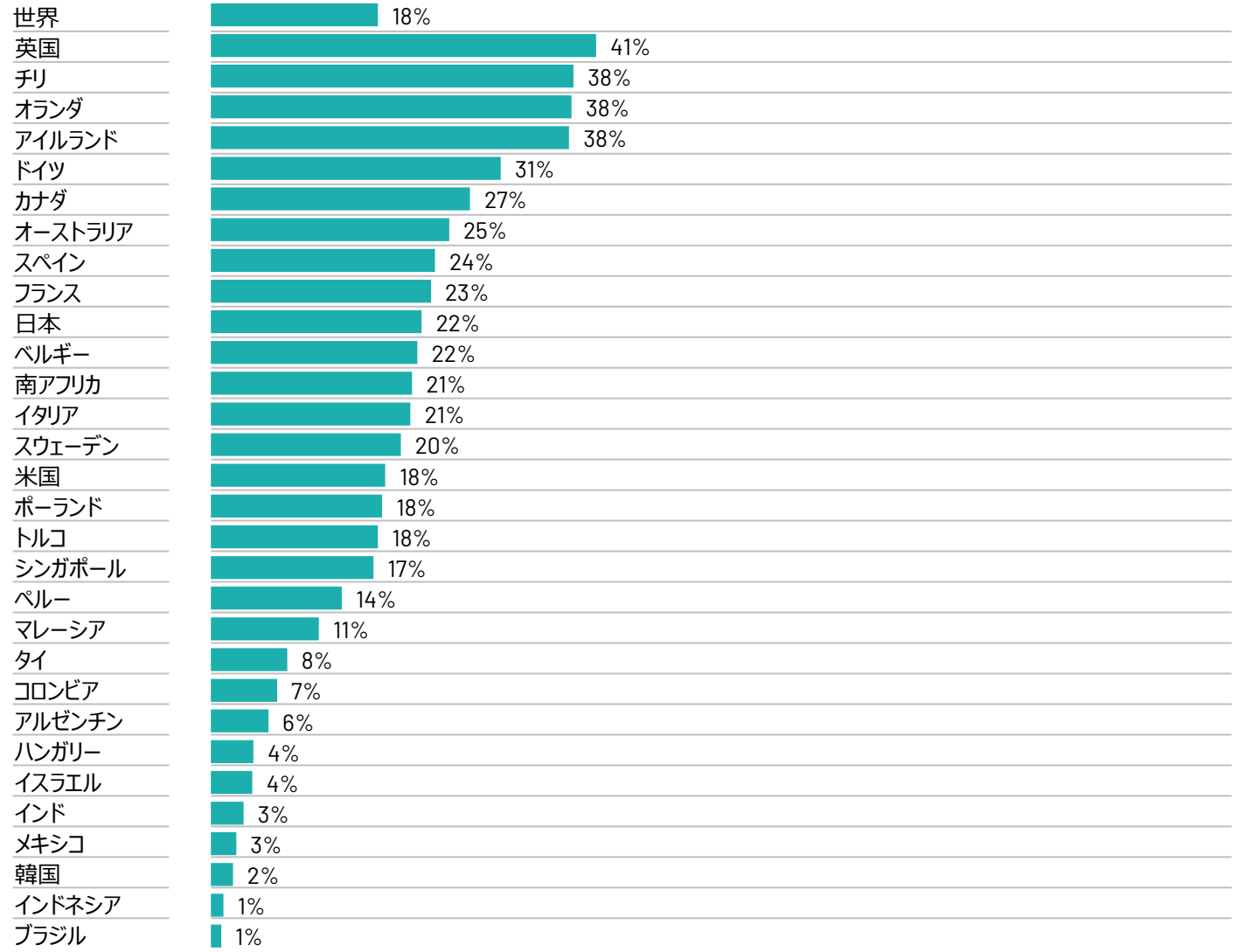
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

8. 移民管理

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	移民管理を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	18%	-1	+1
英国	41%	-2	+10
チリ	38%	-4	-1
オランダ	38%	-1	+8
アイルランド	38%	-4	+1
ドイツ	31%	-6	-4
カナダ	27%	-3	+5
オーストラリア	25%	-2	+8
スペイン	24%	-2	+2
フランス	23%	-6	=
日本	22%	-3	+10
ベルギー	22%	-3	-2
南アフリカ	21%	+5	+6
イタリア	21%	+3	+3
スウェーデン	20%	=	+5
米国	18%	-1	-12
ポーランド	18%	-3	+6
トルコ	18%	-1	-20
シンガポール	17%	+1	+3
ペルー	14%	-2	-2
マレーシア	11%	+3	=
タイ	8%	+1	+1
コロンビア	7%	=	-1
アルゼンチン	6%	+1	+3
ハンガリー	4%	-1	-1
イスラエル	4%	-2	=
インド	3%	-8	-1
メキシコ	3%	-1	-7
韓国	2%	-1	+1
インドネシア	1%	=	-1
ブラジル	1%	=	=

10. 気候変動

今月、30か国全体で気候変動に言及した割合は13%のままです。懸念レベルは昨年12月から3ポイント低下し、今月のスコアは4年以上ぶりの低水準となりました(2021年6月11%)。

世論調査の途中で発生したサイクロン「ディトワ」による東南アジアの深刻な洪水を受けて、タイでは気候変動に対する懸念が大幅に高まっていることがわかります。8ポイント上昇して26%となり、昨年同時期より11ポイント上昇しました。

同様に、マレーシアでも不安は7ポイント上昇して16%となり、これは同国で過去8年間で最も高い数値となっています。

インドネシアのスコアはわずかに上昇して19%となっています。しかし、彼らの不安レベルは2025年9月以来13ポイント上昇しています。

気候変動が最大の懸念事項となっている国:

なし

13%

が、**気候変動**は自国が直面している重要な問題の一つだと答えています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

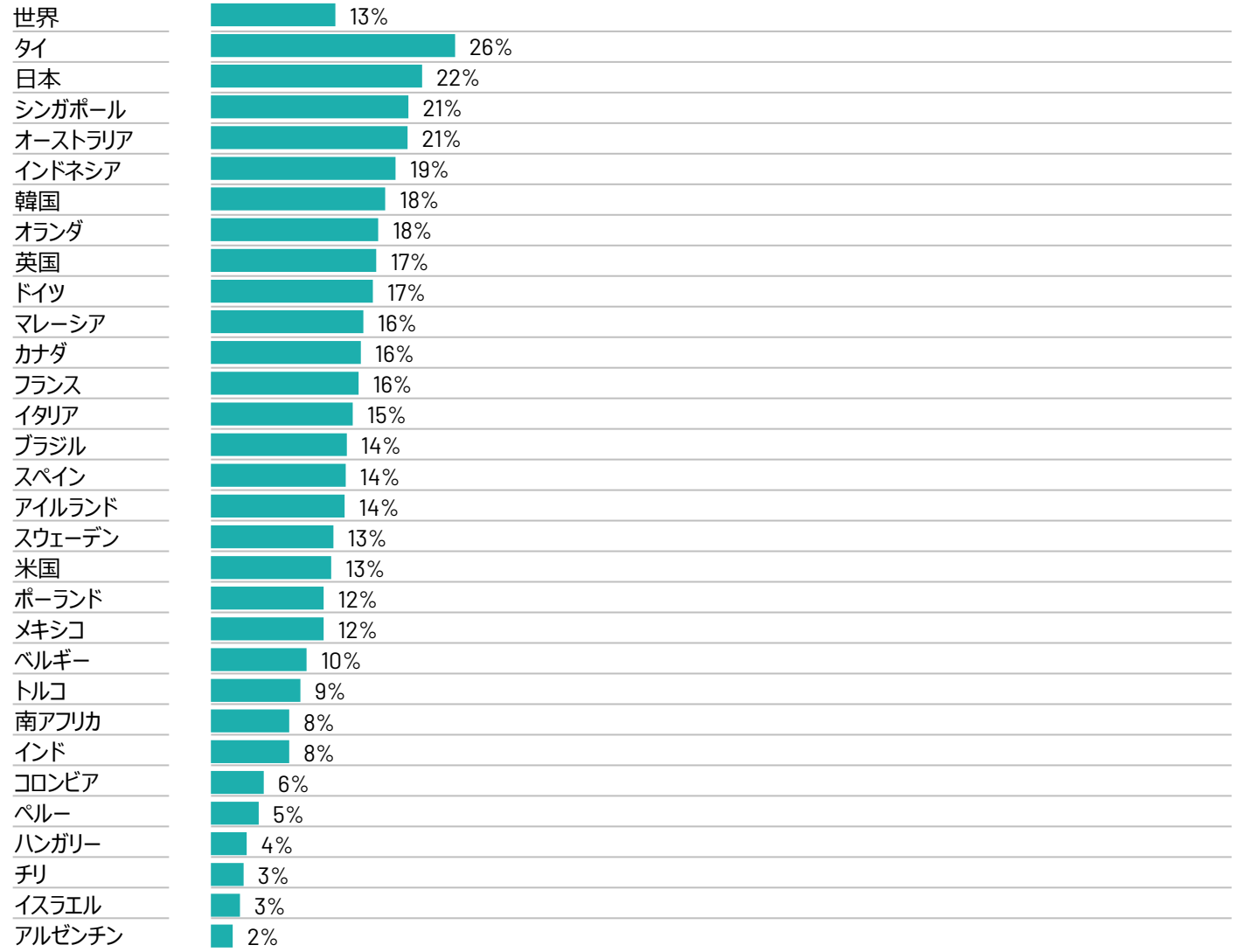
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

10. 気候変動

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月



国	気候変動を懸念していると回答した人の割合	前月からの変化	12か月間の変化
世界	13%	=	-3
タイ	26%	+8	+11
日本	22%	-4	-4
シンガポール	21%	+1	-4
オーストラリア	21%	=	-2
インドネシア	19%	+1	-2
韓国	18%	-2	=
オランダ	18%	-3	-8
英国	17%	+4	-5
ドイツ	17%	=	-4
マレーシア	16%	+7	+2
カナダ	16%	-2	-6
フランス	16%	+1	-7
イタリア	15%	+1	-7
ブラジル	14%	+2	-2
スペイン	14%	-3	-8
アイルランド	14%	+2	-4
スウェーデン	13%	-3	-8
米国	13%	-1	-4
ポーランド	12%	-1	=
メキシコ	12%	+3	-7
ベルギー	10%	-3	-9
トルコ	9%	-2	+3
南アフリカ	8%	+1	-3
インド	8%	-5	-3
コロンビア	6%	-7	-8
ペルー	5%	=	-3
ハンガリー	4%	-2	=
チリ	3%	=	=
イスラエル	3%	+1	+1
アルゼンチン	2%	-2	-2

経済フォーカス

自国の経済状況

イプソスの**世界が懸念していること調査**と並び、毎月実施されている**世界消費者信頼感調査**は、30か国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

詳細については、
Emilios.Louca@ipsos.com
までお問い合わせください。

現在の経済状況

30か国全体では、10人中4人(39%)が自国の現在の経済状況を「良い」と評価しており、2024年12月より3ポイント増加しました。

シンガポールが78%でランキングのトップを占め、続いてマレーシアが74%(過去最高スコア)、インドが73%となっています。オランダ(63%)、インドネシア(52%)、アイルランド(51%)でも、過半数が自国の現在の経済状況を良好と評価しています。

一方、フランス(10%)と日本(15%)では、自国の経済が現在好調であると考える人は5人に1人未満です。

経済を最も懸念している上位国:

- フランス(90%が「悪い」状態だと回答)
- 日本(85%)
- ハンガリー(79%)
- 英国(78%)
- トルコ(75%)

9pp

米国の好景気スコアは過去2年間でわずか9ポイントしか変動していません。同期間においてイタリア(6ポイント)のみがより安定しています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

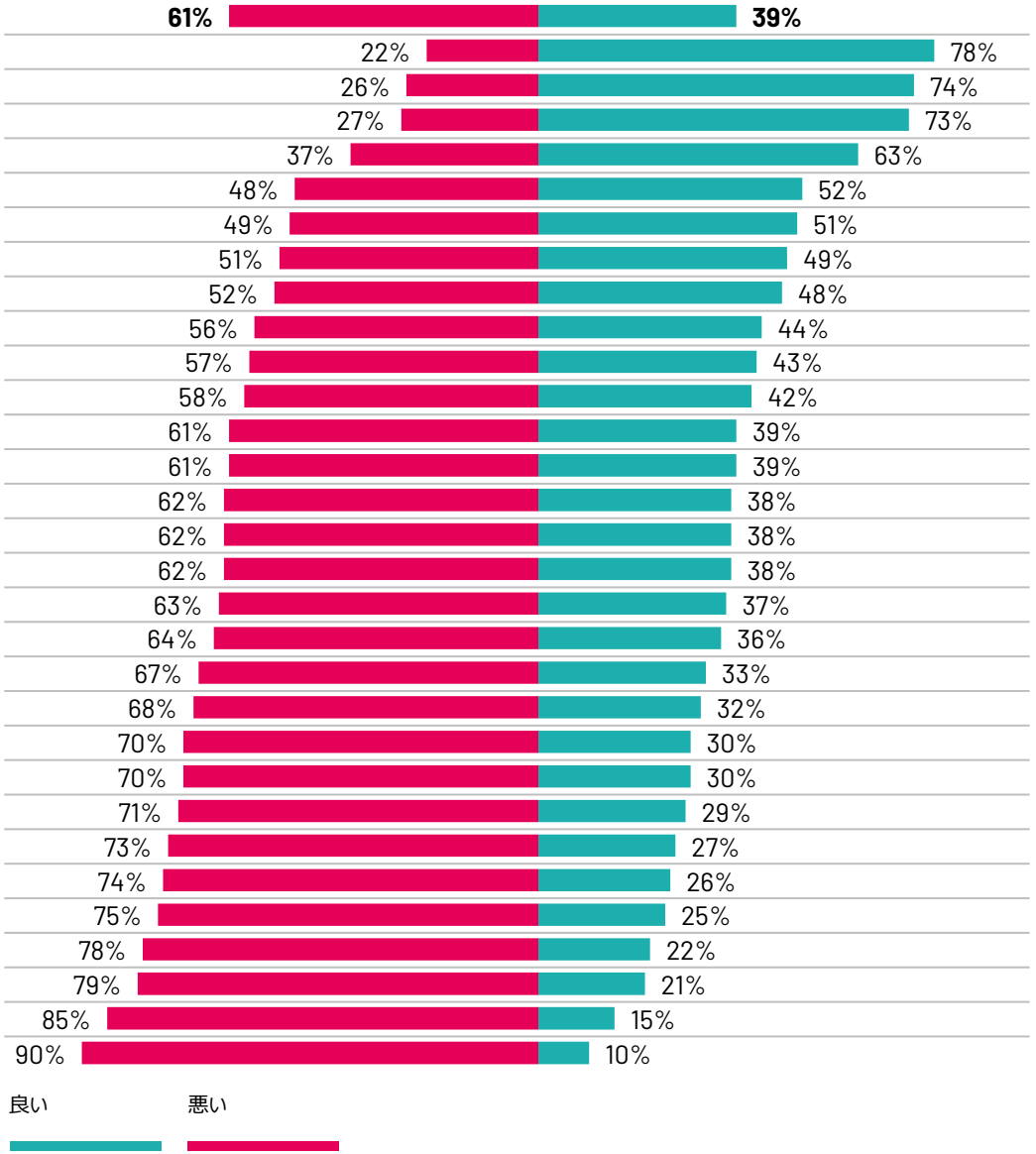
現在の経済状況

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



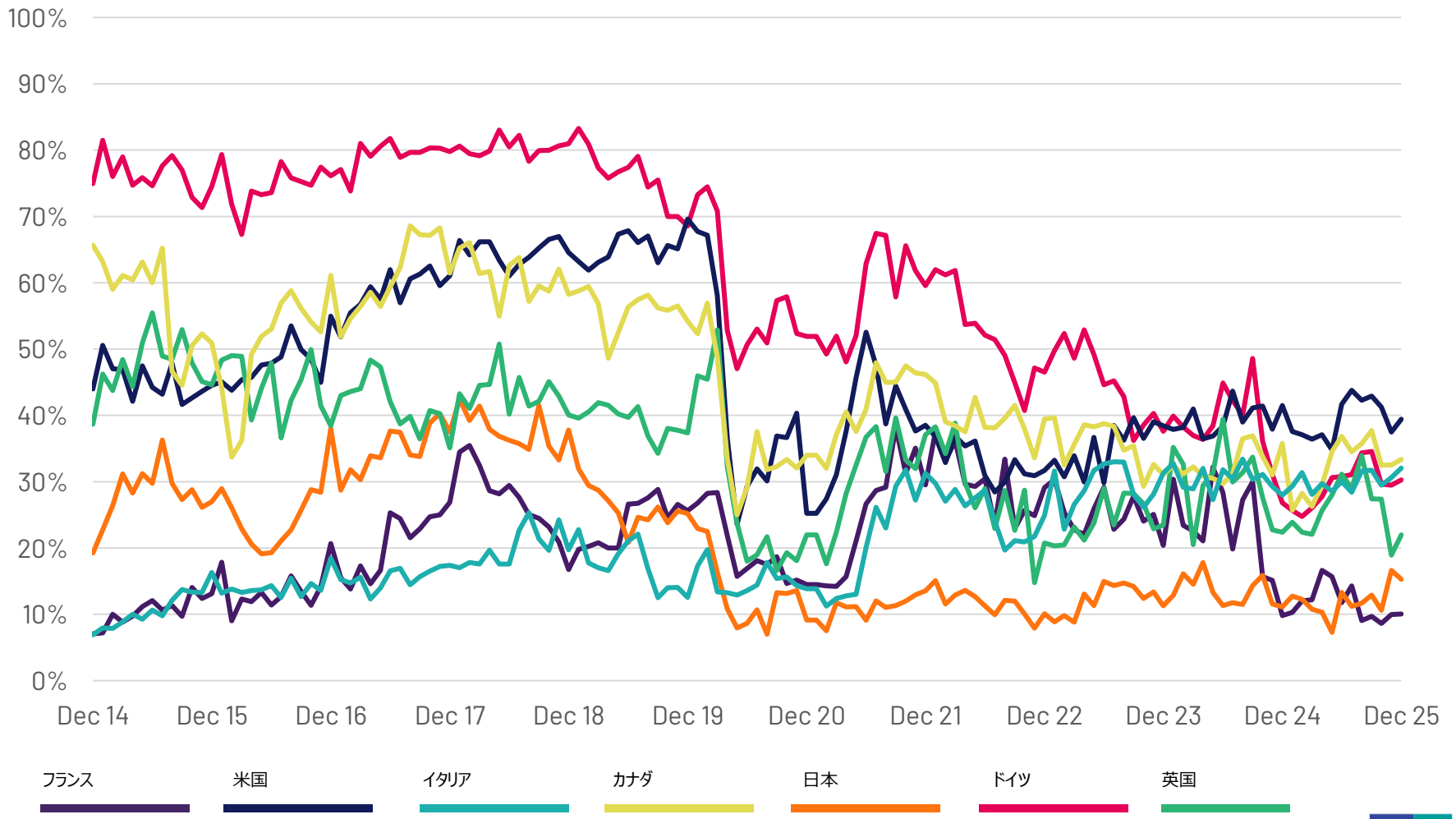
国	悪い	良い	前月からの変化	12か月間の変化
世界	**61%**	**39%**	=	+2
シンガポール	22%	78%	+7	-2
マレーシア	26%	74%	+1	+16
インド	27%	73%	-4	-3
オランダ	37%	63%	-1	+3
インドネシア	48%	52%	-2	-14
アイルランド	49%	51%	+3	-7
オーストラリア	51%	49%	-6	+4
ポーランド	52%	48%	+2	+10
スウェーデン	56%	44%	+4	+1
メキシコ	57%	43%	+7	-1
イスラエル	58%	42%	=	+12
コロンビア	61%	39%	+6	+14
米国	61%	39%	+2	-2
タイ	62%	38%	-4	-7
チリ	62%	38%	+5	+9
スペイン	62%	38%	-2	+1
ブラジル	63%	37%	+1	+2
アルゼンチン	64%	36%	+4	+4
カナダ	67%	33%	=	-3
イタリア	68%	32%	+1	+4
韓国	70%	30%	-6	+20
ドイツ	70%	30%	+1	+3
ペルー	71%	29%	+5	+12
ベルギー	73%	27%	-4	-4
南アフリカ	74%	26%	-1	-5
トルコ	75%	25%	-2	+5
英国	78%	22%	+3	=
ハンガリー	79%	21%	=	+5
日本	85%	15%	-2	+4
フランス	90%	10%	=	=

現在の経済状況

G7

%「とても良い」または「やや良い」

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

現在の経済状況

米国

%「とても良い」または「やや良い」

米国経済に対する認識は過去2年間かなり安定しており、最高値(44%)と最低値(35%)の差はわずか9パーセントポイントです。より安定しているのはイタリアだけです(過去2年間で6ポイント)。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

カナダ

%「とても良い」または「やや良い」

カナダの好景気スコアは、2022年9月(42%)以来40%を超えていません。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

イタリア

%「とても良い」または「やや良い」

イタリアの好景気スコアは月ごとにほとんど変化せず、昨年の同時期より4ポイント上昇しました。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

ドイツ

%「とても良い」または「やや良い」

2021年にパンデミック時代に一時的な回復を経験した後、ドイツの現在の経済状況に対する認識は一貫して低下しています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

英国

%「とても良い」または「やや良い」

英国の好景気スコアは、パンデミック以前に一貫して維持されていたレベルにはまだ達していません。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

日本

%「とても良い」または「やや良い」

日本の現在の経済を「良い」と評価する日本人はわずか15%で、日本は30か国ランキングの中で下から2番目の位置にあります。経済スコアがこれより低いのはフランス(10%)のみです。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

フランス

%「とても良い」または「やや良い」

フランスの経済状況に対する認識は依然として悲観的で、フランス人のわずか10%がそれを「良い」と評価しています。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

チリ

%「とても良い」または「やや良い」

2025年12月は、チリにとって2022年1月以来最高の好景気スコア(39%)を記録しました。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

コロンビア

%「とても良い」または「やや良い」

コロンビアは今月6ポイント上昇し、過去最高の好景気スコア(39%)を記録しました。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

インドネシア

%「とても良い」または「やや良い」

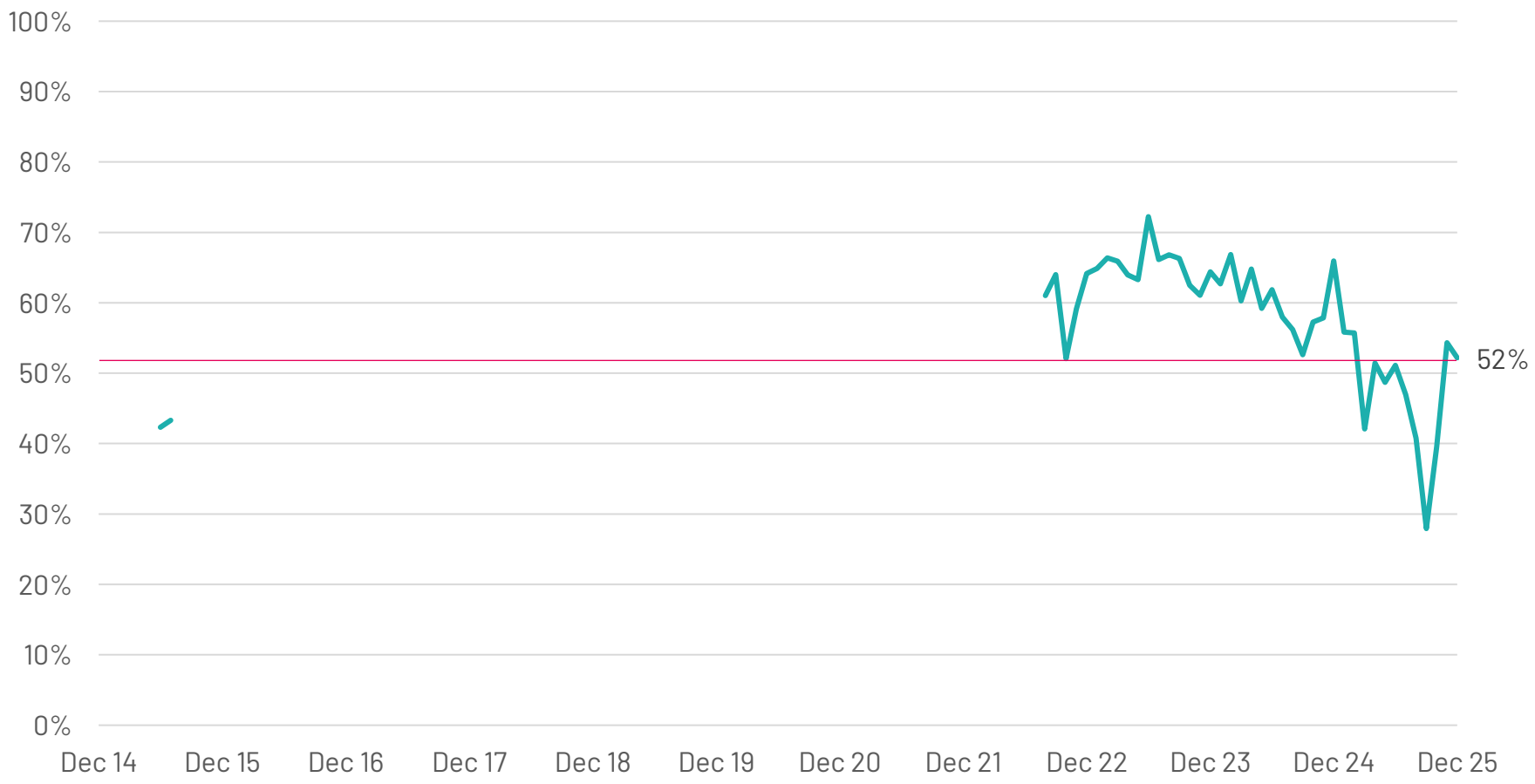
インドネシアの好景気スコアは、調査対象となった30か国の中で昨年の同時期から最も低下し、66%から52%へと14ポイント低下しました。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

マレーシア

%「とても良い」または「やや良い」

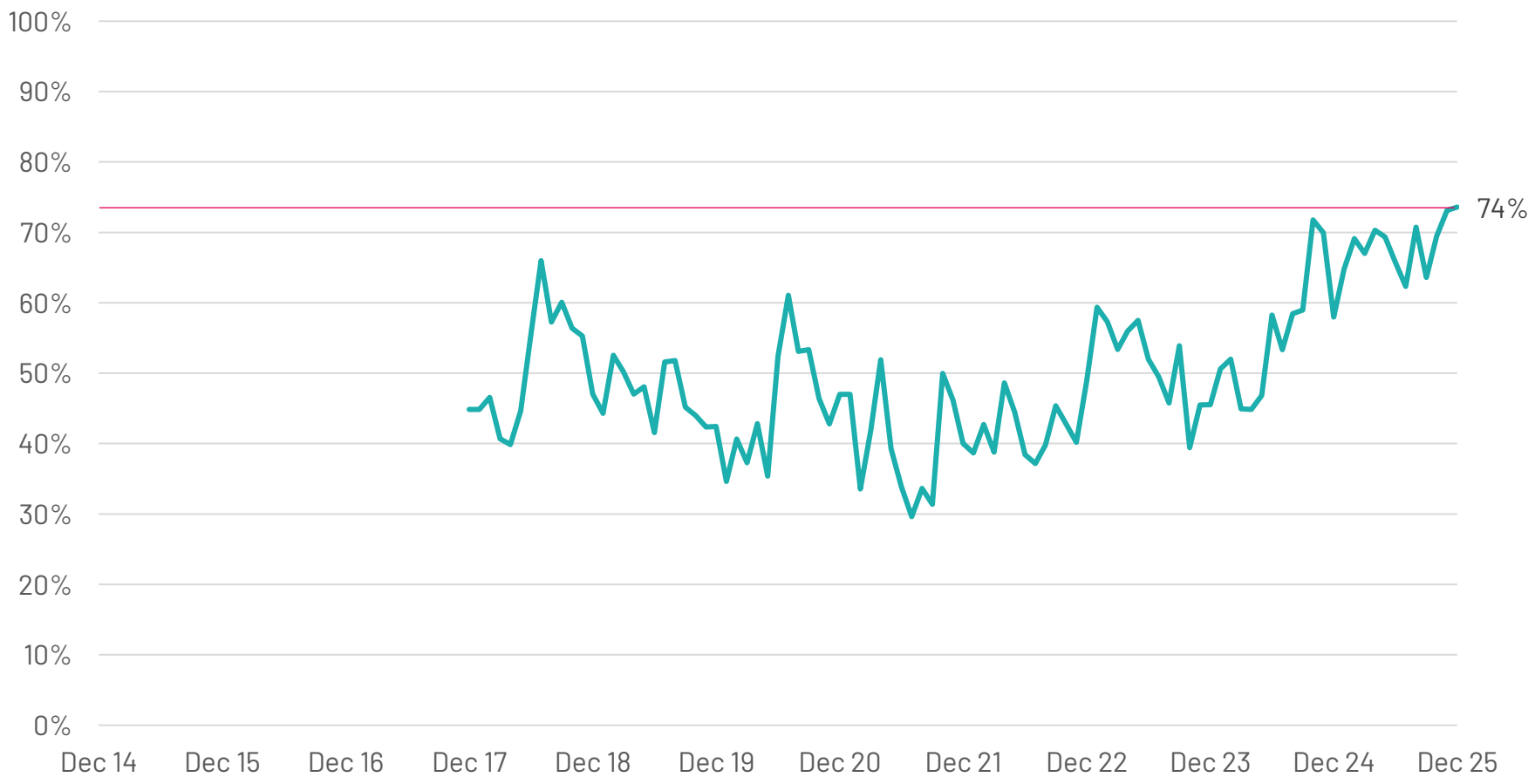
マレーシアは、前月より1ポイント上昇し、過去最高の74%の好景気スコアを獲得しました。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。



現在の経済状況

ペルー

%「とても良い」または「やや良い」

2025年12月はペルーにとって過去5年間で最高の好景気スコアを記録しています(2020年5月、31%)。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

現在の経済状況

韓国

%「とても良い」または「やや良い」

今月は6ポイント低下したにもかかわらず、韓国の好景気スコアは30%と、歴史的な水準よりは大幅に高いままです。

対象: 2025年11月21日～12月5日、参加30か国の16～74歳の24,656人の代表サンプル。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

フィルター: 国: 世界 | 現在のウェーブ: 2025年12月

Q: 自国の現在の経済状況を表現するとしたら、当てはまるものはどれですか。

調査手法

この30か国グローバルアドバイザー調査は、イプソスオンラインパネルシステムを通じて、2025年11月21日から2025年12月5日までの間に、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、インドネシアとタイの20～74歳、シンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳までの24,656人を対象に実施されました。

「世界各国平均」は、調査が実施されたすべての国における平均的な結果を反映しています。各国の人口規模に合わせて調整されておらず、全体的な結果を示すことを意図したものではありません。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、アイルランド、日本、スペイン、スウェーデン、米国の各国で約1,000 人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インドネシア、イスラエル、マレーシア、メキシコ、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各国で約 500 人以上で構成されています。

インドのサンプルは約 2,200 人で構成され、そのうち約 1,800 人が対面で調査を受け、400 人がオンラインで調査を受けました。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、これらの国の 75 歳未満の一般成人人口の代表として考えることができます。

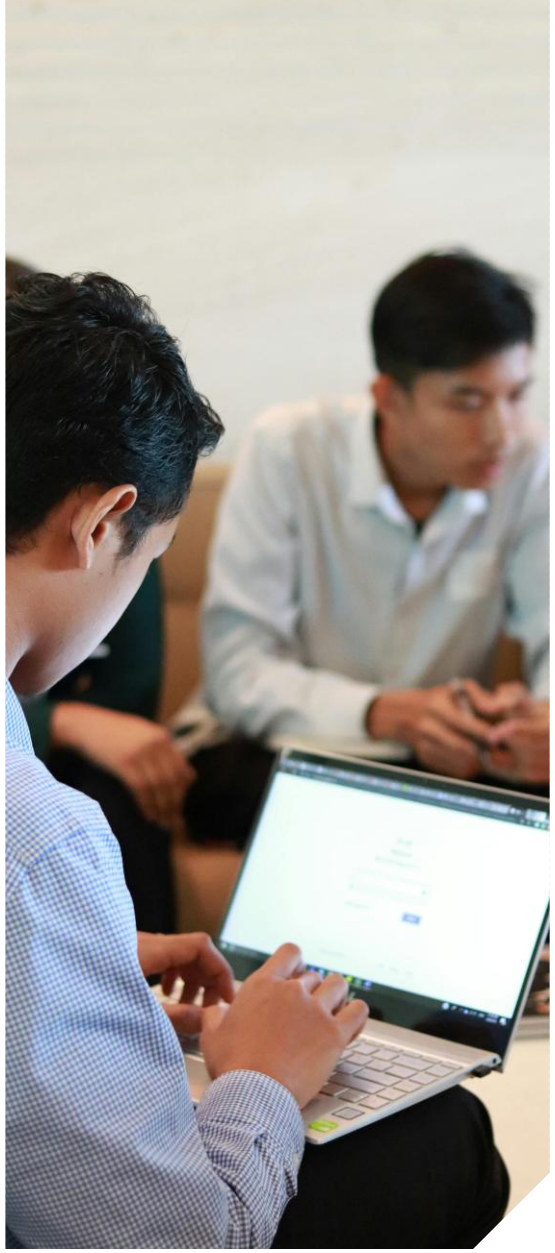
ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口よりも都市部に住み、教育水準が高く、裕福です。これらの市場の調査結果は、これらの人口の中でもデジタル接続性の高いよりコネクテッドな層の意見を反映しているものと考えられます。

インドのサンプルは、都市部の人口の大部分、つまり大都市圏の社会経済階級A、B、Cと、全4ゾーンのTier 1-3の都市の階級を代表しています。

人口統計のバランスを取り、サンプルの構成が最新の国勢調査データによる成人人口の構成を反映するようにするために、重み付けが採用されています。
イプソスのオンライン世論調査の精度は、信頼区間を使用して計算され、1,000 件の世論調査では +/- 3.5 パーセントポイントの精度、500 件の世論調査では +/- 5.0 パーセントポイントの精度となります。イプソスによる信頼区間の使用に関する詳細については、イプソスのウェブサイトをご覧ください。

結果の合計が100にならない場合、または「差」が実際より+/-1多い/少ないように見える場合は、四捨五入、複数回答、または「わからない」または未回答の回答の除外が原因である可能性があります。

これらの調査結果の公表は現地の規則および規制に従って行われます。



THANK YOU

CONTACT:
Joseph.Nadler@ipsos.com

VISIT:
Ipsos.com